

河內名所圖會

五

60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 95 1 2 3 4 5 6 7 8 9 97 1 2 3 4 5 6 7 8 9 98 1 2 3 4 5 6 7 8 9 99 1 2 3 4 5 6 7 8 9 995

河内名所圖會卷之五目錄

大縣郡

亀瀬

川奇石

數品

宿奈神社

高安田廢寺

金山孫神社

鐸比古神社

地藏堂

金山孫女神社

冰室旧蹟

支婦冢

寡婦冢

瑠璃寺

山井

若倭姫神社

常世岐姫神社

大泊神社

高安山

高安郡

恩智山

天湯川田神社

高安山

普光廢寺

竹原井

大日寺

天照高座神社

白飯滝

掃部神祠

八大金剛福

法藏寺

佛殿 清涼塔

高安城墟

真德丸古蹟

鬼額

四百殿

石佛 銘文

圓鏡池

玉祖神社

未社 榆原割

本地堂 輪比紫苑

竹之坊

夜懸巖

業平河内通跡

意の水

春日戶神社

笛吹松

鶴神社

別之水

花岡山

御祖神社

夜懸巖

樂音寺

千塚

登越坂

十三佈

伊駒山

河内郡

御野神社

竹之坊

池島觀音

恩知川

御祖神社

夜懸巖

梶無神社

櫻井

御祖神社

夜懸巖

牧岡神社

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

大塚

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

大津神社

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

御田祠

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

不動寺

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

額田寺

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

草薙山

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

大龍寺

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

千手寺

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

長尾寺

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

桿嶺峠

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

草香山

未社

恩知川

御祖神社

夜懸巖

大龍寺

未社

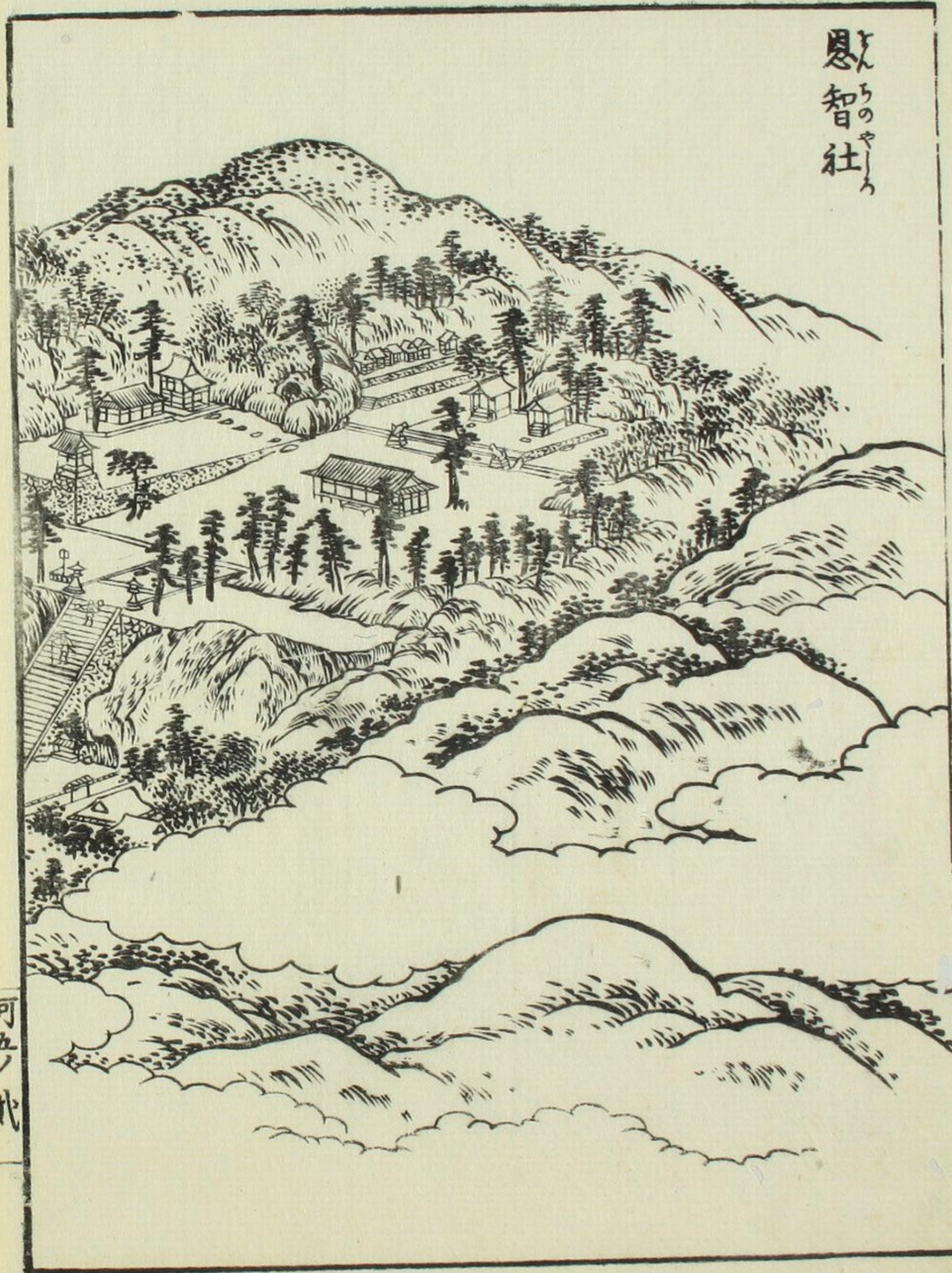
恩知川

御祖神社

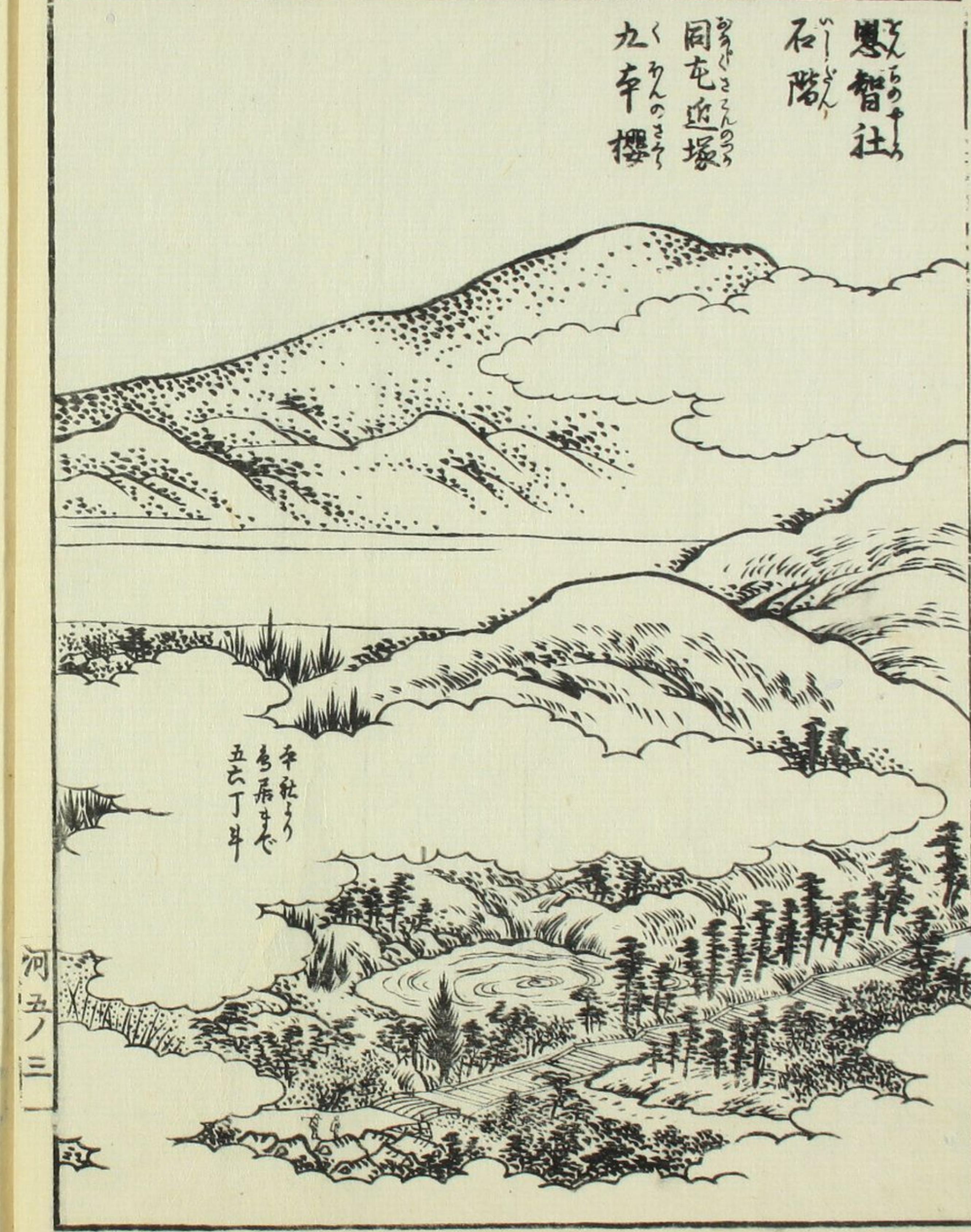
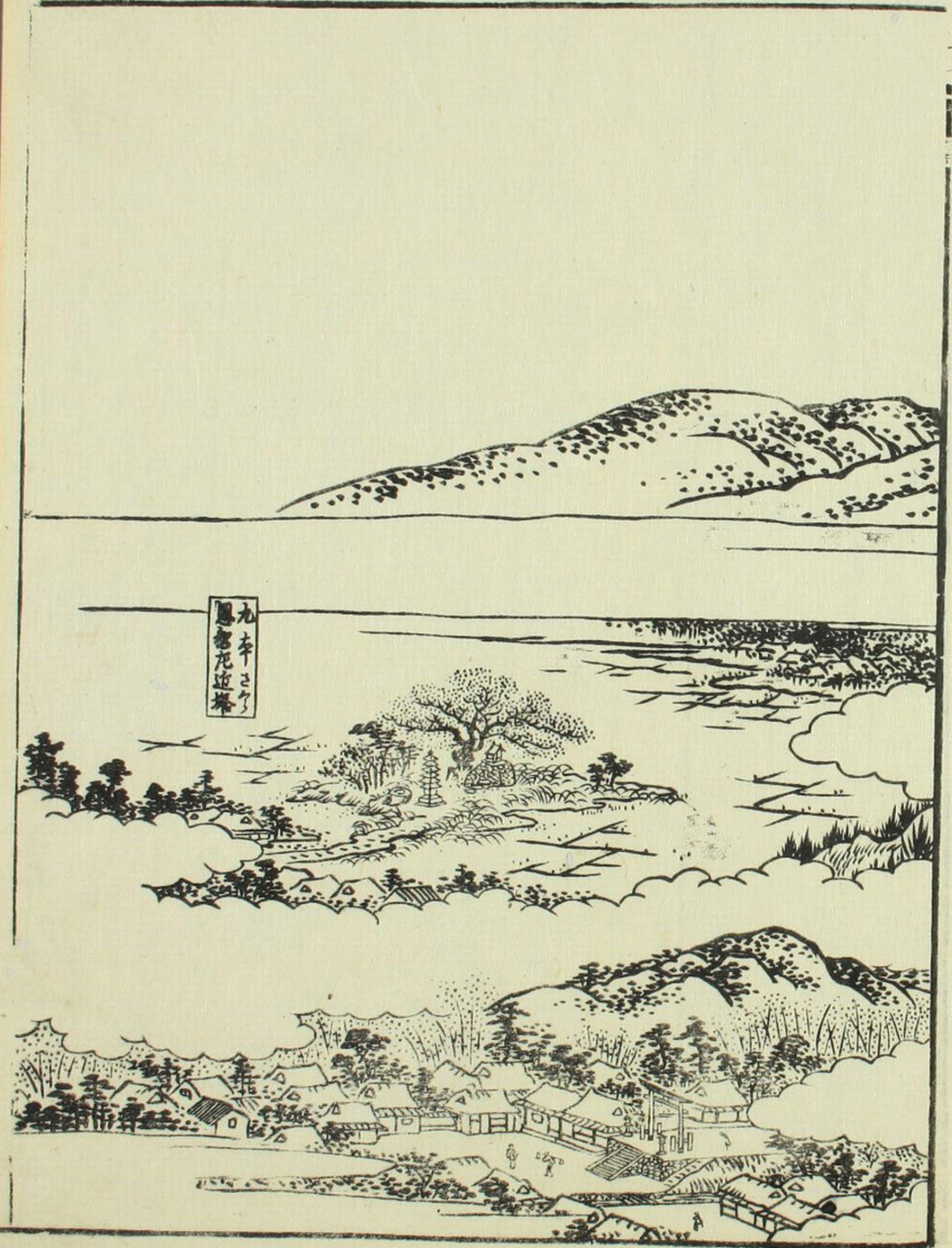
夜懸巖



河五ノ武



恩智社



大縣郡 東も和列子郡の界が限り西も志紀郡の界が限り

南を安寄郡の界を限る

北列移田川の下流あり水源太和名前開倉に參りあ上の名所りて

是より河掛乃累通花田

程に里四町あり出逢ひ玉林妙見堂

高尾山 大縣村の東みだり山腰小老樹一株あり根を巨岩の上に纏へ

三葉にて愛きよき里人を標して參スベ

天湯川田神社 は地の生土神

竹原井 高井田竹原山みあり續日本紀云書考元年二月

竹原井の頃宮小川幸

神人うふ木立御石を石井あり又宝龜二月竹原井の頃宮小川幸

宿奈川田神社 は地の生土神延喜式出

高井田廢寺 鹿島村小長榮ちやくす高井田寺を

普光慶寺 日村小あり傳云延曆二年六月寺僧勤韓赤部公護

宿奈川田神社 は地の生土神延喜式出

大日寺 安堂村小あり曹洞宗永照山中号れ太平村の智識寺の一院あり

中興耕和享保十一年の再興也

辛酉大日如來 玄麁橘西村氏

伏見一名井上寺

又名鳥阪寺

高井田廢寺 鹿島村小長榮ちやくす高井田寺を

普光慶寺 日村小あり傳云延曆二年六月寺僧勤韓赤部公護

宿奈川田神社 は地の生土神延喜式出

大日寺 安堂村小あり曹洞宗永照山中号れ太平村の智識寺の一院あり

中興耕和享保十一年の再興也

辛酉大日如來 玄麁橘西村氏

金山孫神社 延喜式内高さ志谷村の山腰（山）山中号れ太平村の智識寺の一院あり

鷹巢山 法若ち村の上方小あり木山中山腰相接なりとも巣巣と繼

地藏堂 魚鰐等小あり里人云婦人乳を瘤の或を乳のうちにあり

金山孫女神社 延喜式出雁多尾細山のあり今山王と称れ

智識寺 初先安堂を平の二村小りて伽藍魏々天平勝宝八年

清淨泉 古平ち村小あり

松谷光德寺 四時圓れど

奉持院佛 立像式足淨慈貴所の供養融法皇の法念持佛、毘人

牛子阿弥陀佛 平康弘行の小室應あり當寺も融院の拂達院

一東廣山照曜峯寺空号（一）伽藍魏然たり其後安貞二年三井

の後矢傍都信貴山鬼門天の靈告公感して後塩川院へ奏一堂金を

再建一ゆい勅照曜山光德寺と改む後奈良附安居院の聖覺

法不值專修念佛門入遂小親喜聖人の身とす

松谷光德寺 雁多尾細村少り淨去真宗

牛子阿弥陀佛 立像式足淨慈貴所の供養融法皇の法念持佛、毘人

一東廣山照曜峯寺空号（一）伽藍魏然たり其後安貞二年三井

の後矢傍都信貴山鬼門天の靈告公感して後塩川院へ奏一堂金を

再建一ゆい勅照曜山光德寺と改む後奈良附安居院の聖覺

崩冢 春日神祠 大縣村小あり 大縣山井 法善寺 平野寺の
大泊神社 延喜式出 千堂村小あり 今山王堂称れ
常世岐姫神社 延喜式出 神宮寺村小あり 今八王子堂稱れ
高安郡 東ハ和州平群郡の界を限リ 西ハ若江郡の界を限リ
恩智山 恩智村の東北山

恩智神社二座 延喜式曰名神大月次振算 新嘗 恩智山小あり

十一月卯辰の日文徳實
津御食津

並テ授從 嘉祥二年冬十月 恩智御食津

二位 授從正三候六等 三代實添云元親元年正月

左近將監恩智満一墓 恩智村の中少あり 榍氏の麾下不属

勤房志操愛せし城郭の見附石は還の傍社の入也小あり

九卒櫻 恩智村の側古木古木大樹根際うね力卓角
分る今株古木にて弄雅へ龜も古梅のめく蘆葉の樹

五六十午餘れを桔梗花白ふ子の多くこれに枝葉の競甚

氷室舊蹟 鹿尾畠村小あり 氷室の跡に有りに徳天皇の清享年
支婦冢 同村小あり 由縁傳此に

琉璃光寺 井村小あり 医王山也号に開基と行基大士より奉之

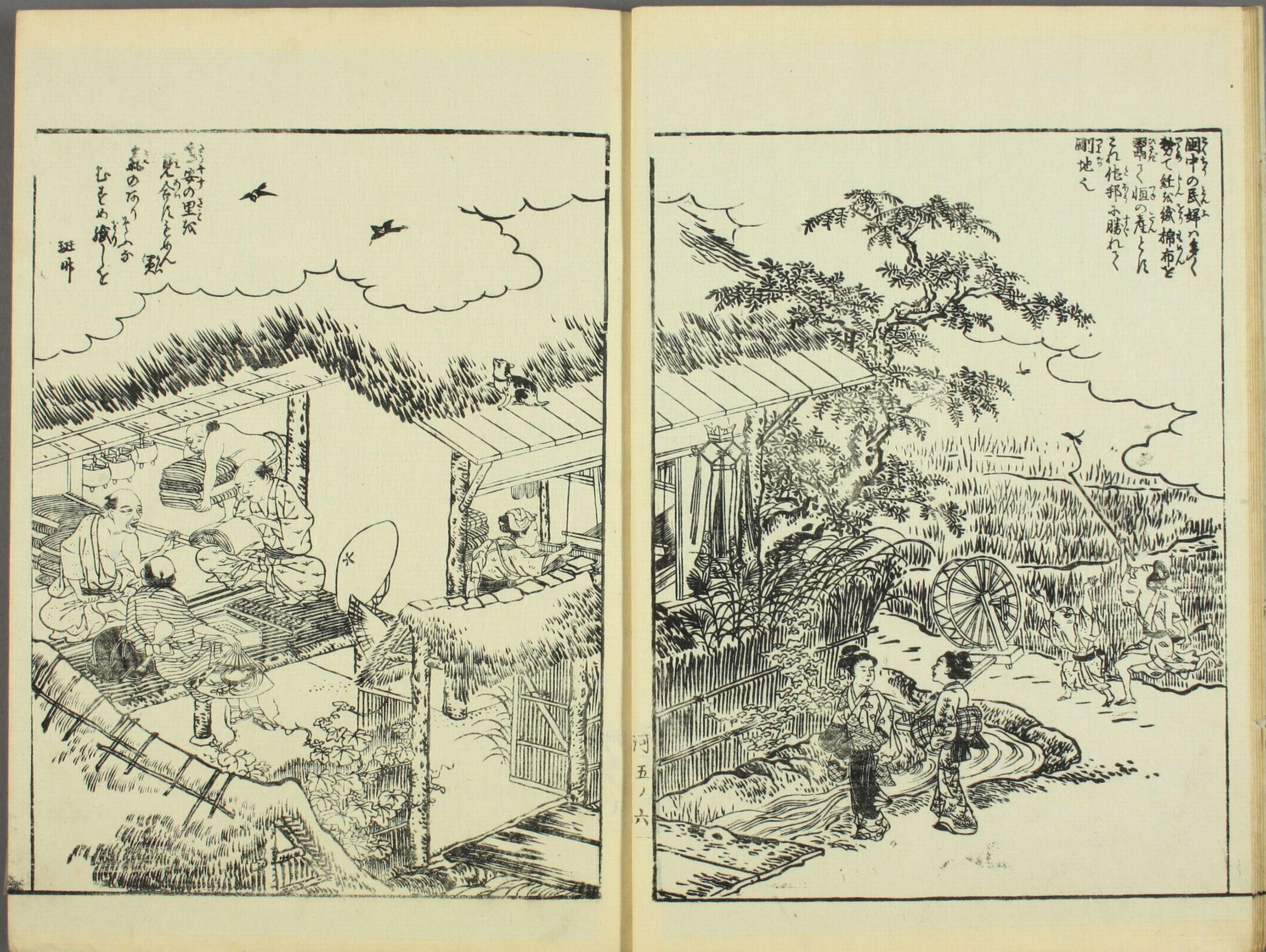
山井 眼疾のため灌を看治する所あり

石神社 延喜式出太平寺村小あり 今熊野と称れ 二代實添云

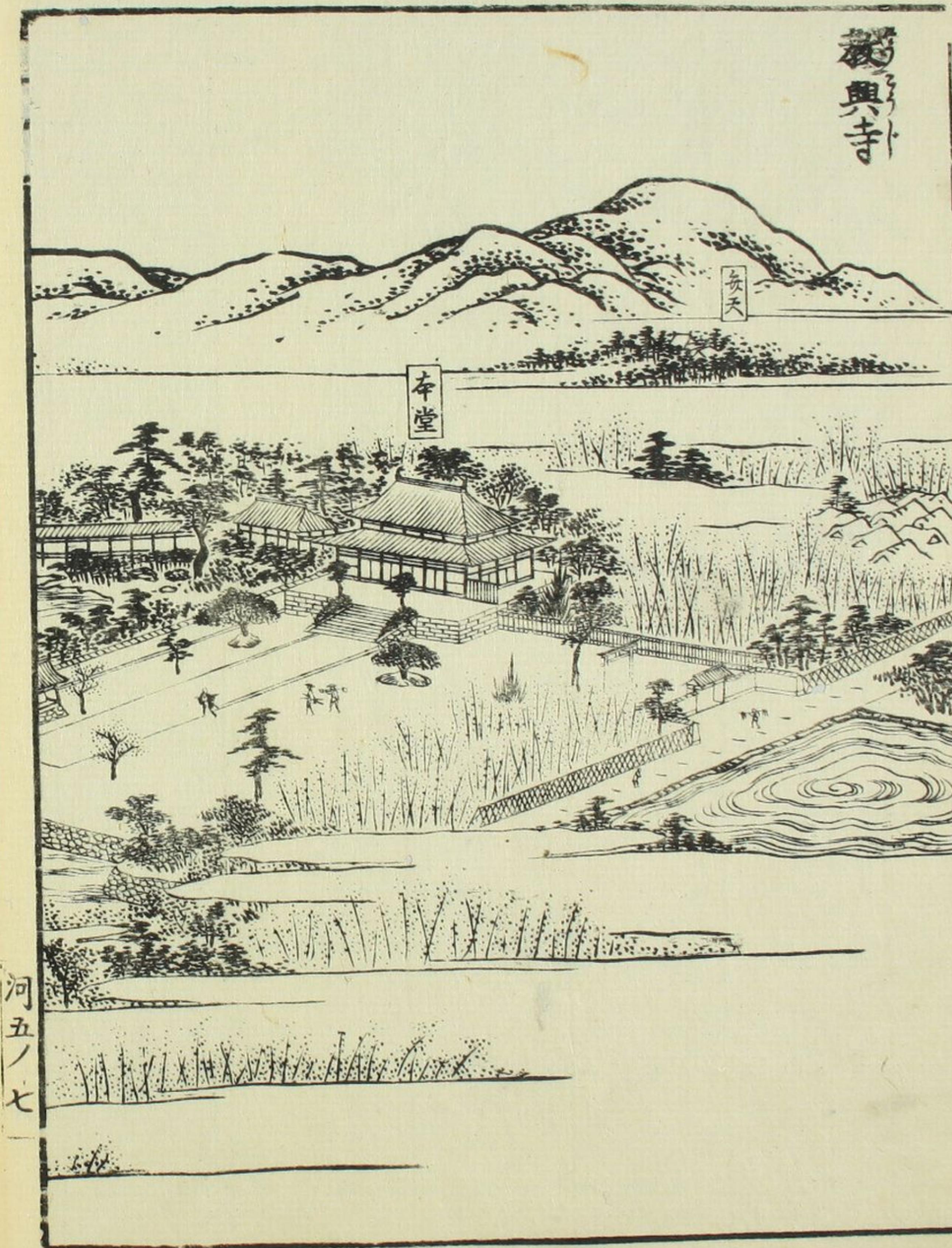
若倭姫神社 鎏延喜式出平野村小あり 今權現八幡二座堂稱れ
真觀九年二月頤官社は地の生土神と云
此地の生土神と云 三代實添云真觀元年八月授從五位下
此地の生土神と云 三代實添云真觀元年八月授從五位下
此地の生土神と云 三代實添云真觀元年八月授從五位下

阪戸原荒陵 平野村小あり 里人云清寧天皇陵也稱れ 陵上本大本
高麗王の古社あり 本浦村白髮山より
考案ふと云か明治ノ時改葬の事也

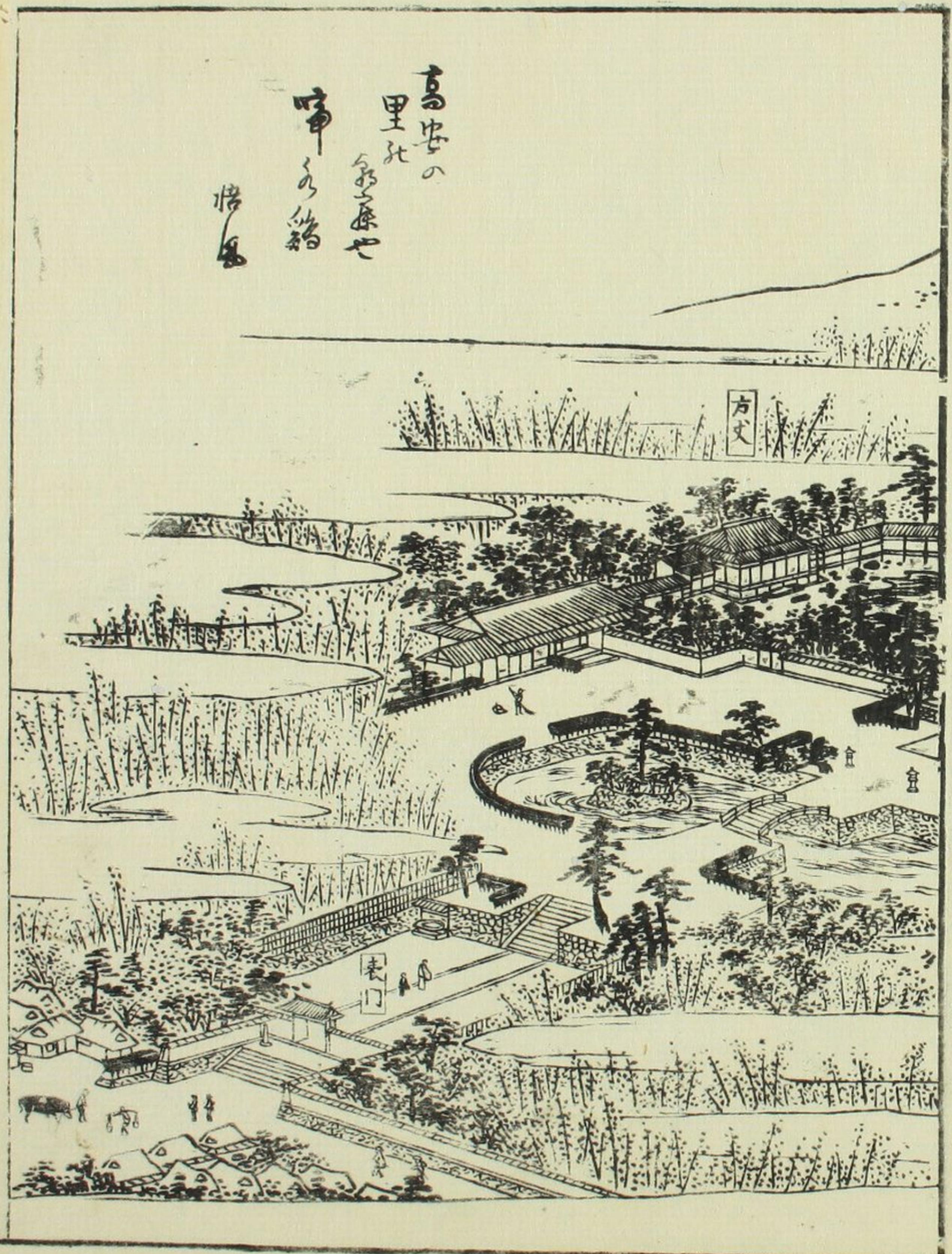
河五ノ五



興寺



河五ノ七





高安山

一郡の東にあり平城郡の寺時烽燧を舉

日辛卯紀曰高日野の烽火と和潤五年正月河内國高安の烽

續

軍勢ありより高安の烽火と同也。又大和名所圖會卷日高安山の烽燧也。或云其の事は也。今云高安の烽火と云ふ者少く是と同ひく遠き事也。又元亨釋書曰寛平九年沙門明遠高安縣在東山小登里生駒谷の仙家小入りて歸るが如也。是之謂也。又高安の烽火は駒門傳也。遠く遡れ足りず。又越後の鶴鷺の勝地也。

高安里

高安里。和泉名所古跡也。

宝治六年

雲もむね性馬也。ふのひのんとせも雪もむ安の里

和泉

安をむくの、ゆかく小月えく夜うけうり高安里至

天本

これ也とてひく三面乃よ北端り育田の月をむ安德里

源惠長居

高安ふう裏にたりか時多ひあ處の山と越くかくら。公朝
高安里秦寺ともて、中以降火小罷て、大荒廢を今村中
高安里安本綱。山内の農民綱を多く使ひて、おも家事不善あり。男女を
高安里安本綱。わいとあゆく、綱績多くおもうれを織ぐ。高安里他郡小勝く
高安里安本綱。高安里安本綱。是を河内本綱。

織りて河内うちの本綱安まちゆの油向へ始む。

外村人

河五ノ九

狮子吼山教興寺

教興寺村小あり。一名高安也。又大慈三昧院と號す。

天本

尊弥勒菩薩。聖徳を子拂也。

本尊弥勒菩薩。長毛丈余度像。

本尊弥勒菩薩。藍山魏然坐蓮也。初ち秦川勝の建

立。又秦寺ともて、中以降火小罷て、大荒廢を今村中

近年覺立比丘再興を佛殿天井の画と蟠龍を墨く。持野

本石風系ありて、奇雅なり。

天照大神寫座神社二座

延喜式曰大月次新嘗元春日戸神社と号す。

本神一。教興寺の堂内小安に神像あり弘法大師の像也。

又七付御案六月七日は前の生ち作にて同社を祀る。

而て巨巖魏然立つて一箇の岩窟を神窟とし。小龕を置

あり。頃て岩戸ともてふだまき岩窟なり。生あるか作

代うのをぐ

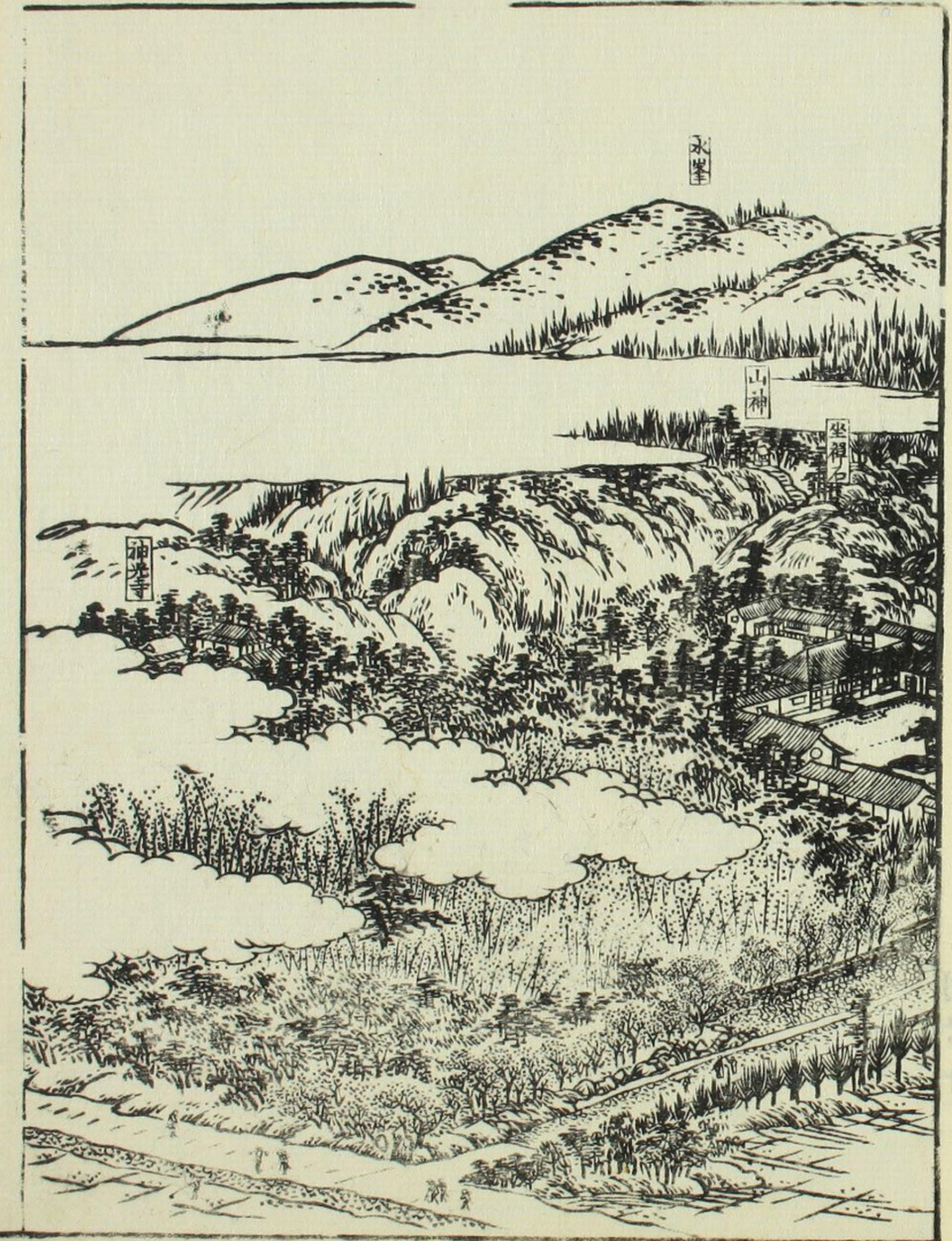
形もべ

白飯瀧窟の南小あり。高さ三丈。土人辨天像とり。

掃部神祠十二月授從五位下

八大金剛童子祠

黑谷村山中





河五ノ十一



大覺山法藏禪寺

禪宗曹洞派

本尊正觀音 佛殿不動子 優金鑑佛 唐僧長立于船士 龙毘門天

石像觀世音 楞伽弘法密處傳法 大師之像 石像觀世音 有上方佛坐 僧優金鑑佛 唐僧長立于船士 龙毘門天

石像觀世音 相傳弘法密處傳法 大師之像 石像觀世音 有上方佛坐 僧優金鑑佛 唐僧長立于船士 龙毘門天

清涼塔 好山和尚の廟碑 佛堂外ノ清涼塔影と影に當山圓祖

圓鏡池 菩提堂あり此處ノ圓鏡池也

登龍坂 鎮守角石

支度山古寺 久遠在國基北之山也

年久て荒蕪小び漸次元緑中壁汎の僧居止候して極樂寺

之號を厥后曹洞宗好山和尚も小棲く再官の後預焉に弟子

當時の惺惟仁海和尚字も益側作令弘愛く佛殿諸堂寮會

方丈も悉再建して名法藏寺也改む柳岡祖好山和尚も南

海四國の刺史長曾我部泰氏の裔孫く若冠の時土列真如寺小

院と蘿蔓一遊方の後陽列泰雲寺小首穢一標列退藏室

天桂禪師小從嗣法一續小寶曆十一年二月廿三日壽山小旅

寂れ年七十二代益洲和尚も亦同姓同姓の人あり止職く精

舍の營建立て道俗高く祥符や丹青狀好もく美園小邊以

画廊を隨縫齊無礙寺号一沈氏が者流を慕ふ虎松園にて

其精妙を滑る

神靈泉寺の東南懷抱園の中ふあり傳云滿山都是水也

霖雨の時も濁流一服祁祁の溪水を汲く能用之也

篤る年十七年一秋高神龜の仲ふ現まく中を仰て泡丸

それうち瘞丈と庵く後并々を鑿奉事二洞許されものあり

一偈も歌く瘞丈方小房にて羅人曰く是則勒く今十四年

遷化べり也乞入丈又岩碑入鑿入内小不石儀あるが故の

み極小的く靈氣涌あきら半偏りて餘の如く其の外の

の爲め更にとて洞の樋伏のれく巣をもつて底のめく底裏が丈の庭中

の爲め半時もとてこよどみ合ひ其の上に寺を造りとく人

感矣せしゆとく人

題神靈泉

自龍神現夢中昆明細想漢時功

肥後州禹鱗

刺山勢向巖崖發卓錫心依勝槩

碧水寒橫竹引銀河夜冷透雲通

茗飲更夏孤葉不驚

佐麻多度神社山神村生土神延喜式出又闇齋錄年載

真德曆古跡山神村中人姓氏分明延喜式傳曲

百濟王の後延喜式小後德山神村中人之誠曲

弱法降山神村中人之誠曲

玉祖神社山神村中人之誠曲

延喜式山神村中人之誠曲

未社吉野三十八所神恩智山神村中人之誠曲

本地堂下殿の地不あり教主坐山神村中人之誠曲

末社住吉八王子蛭子山神村中人之誠曲

菌光寺竹之坊山神村中人之誠曲

本尊千手觀音壹演傍正の感深く傳正弘法大師の縁す

初山神村中人之誠曲

千手大悲の聲容觀正の御者之聲と仰山神村中人之誠曲

て本地堂坐山神村中人之誠曲

三郎義就の書あり左記を又本地堂坐山神村中人之誠曲

村の農家小町

河内國菌光寺者

鎌倉之古跡據所也お寺并田畠山林本

甲乙人寺不可有私入坊之休め申

文治元年十二月日

平

河五ノ十四

朝比奈書翰

少々松も半分からぬ氣人

多用お詫び申上

て

義就

山

業平河内通古蹟山神村中人之誠曲

水

戀の水山神村中人之誠曲

十三峠山神村中人之誠曲

道太坂山神村中人之誠曲

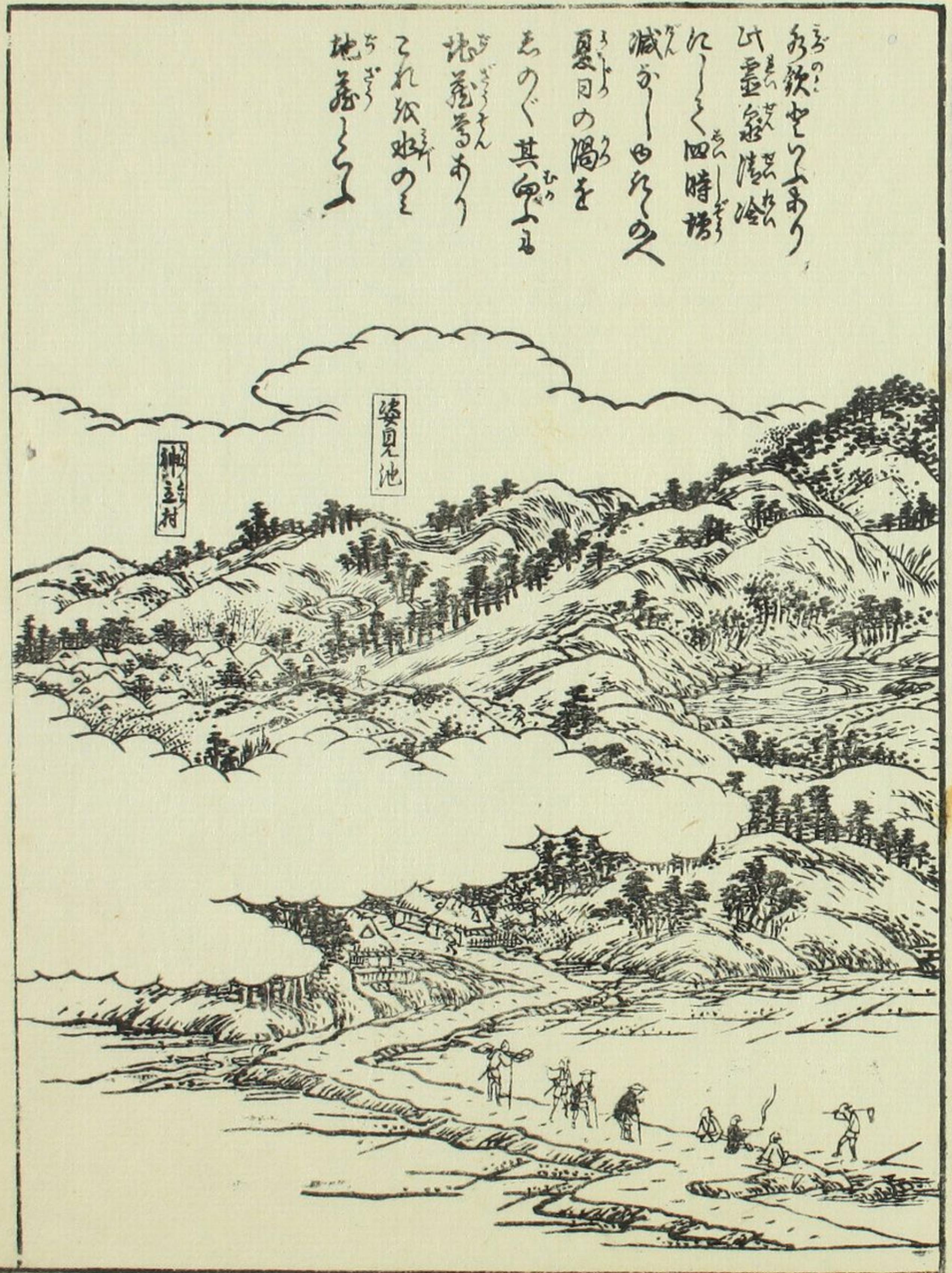
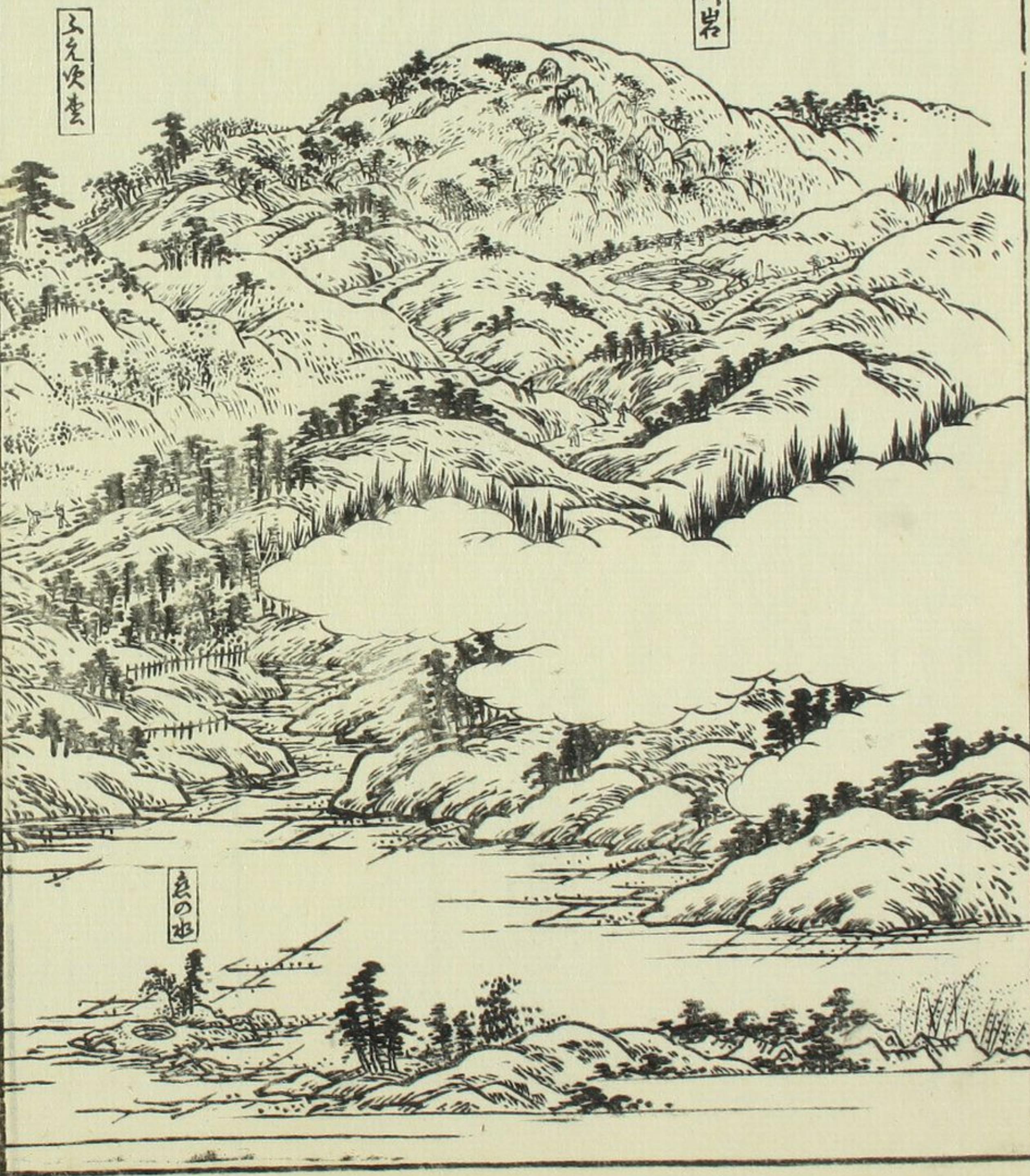
業平河内通古蹟山神村中人之誠曲

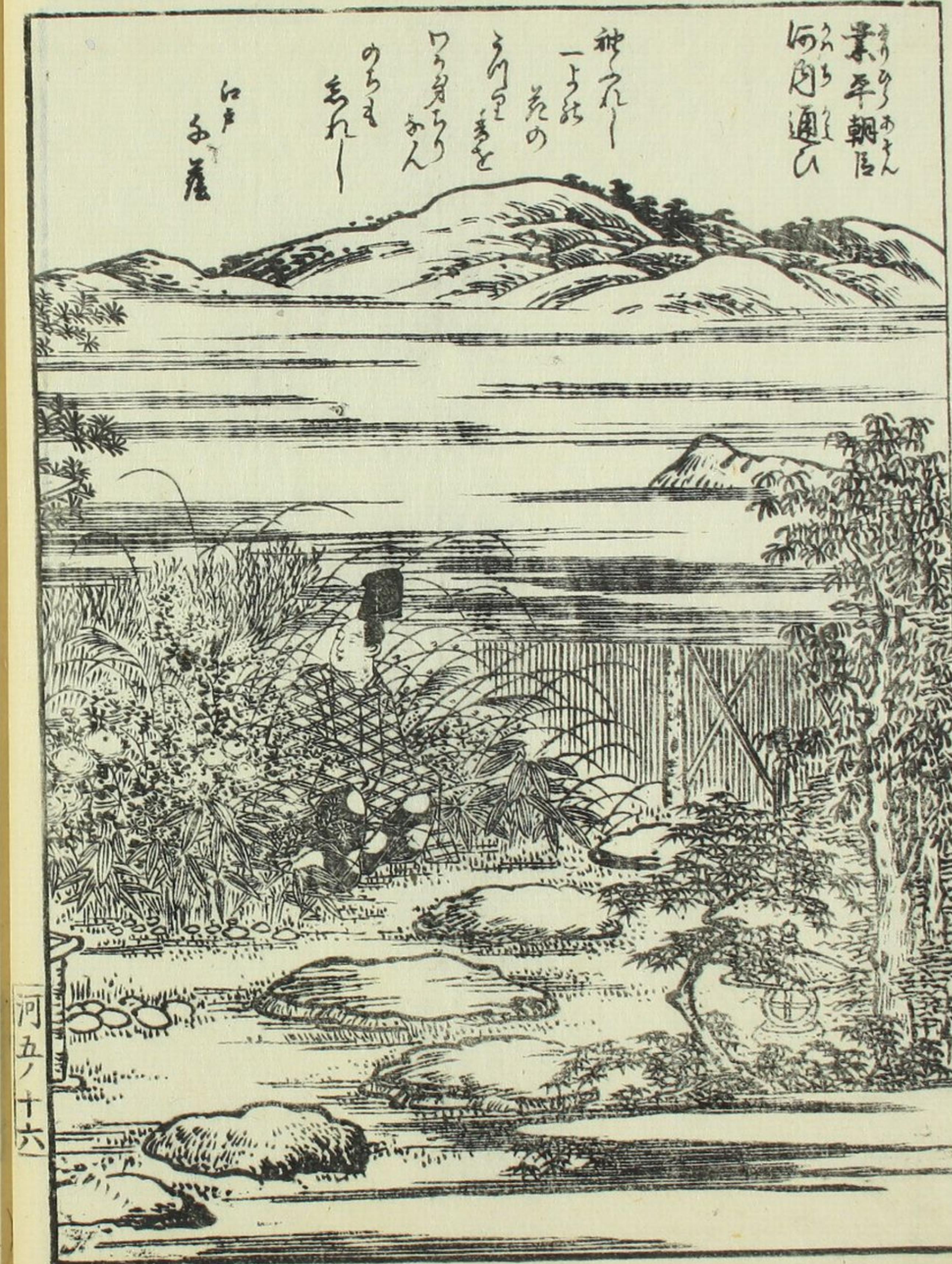
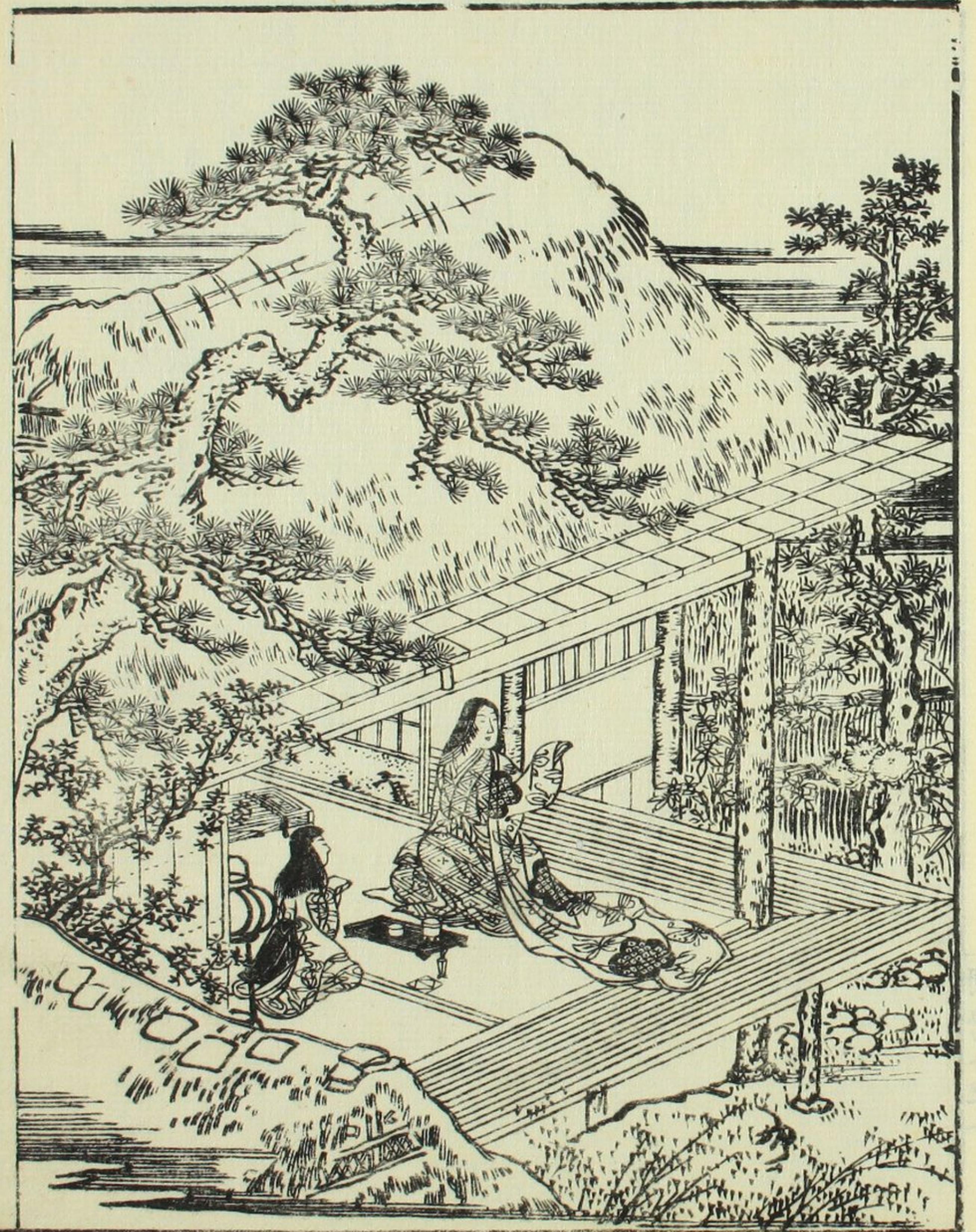
水

戀の水山神村中人之誠曲

トトミンタマゲ
十二峠

良樹岩





笛

吹

松

十三

樹

石

水

之

外

の

水

之

外

の

水

之

外

の

水

之

外

の

水

之

外

夜

懸

岩

水

之

外

の

水

之

外

の

水

之

外

の

水

之

外

の

水

之

外

の

水

之

外

別の水之れを業平河内也和國紀有常ももくちめ貞奴の操をなく

在中將はあふうろぬいきめくありひ太和のうことをうりかやあ
高安の里小ゑくむがくふむうふう窓うりのせんえんゆくと
かのとんみがぼうく般ひそりくけとのうるそりのふくらうのまを
鶴窓うりはと男のをざくろく作りたれをかの女うち櫛て
縁の女れ眞心をあそひる安のとんきくは時見御よしわく
おぞろくタタやおほくタん池のそとおるね櫛
おぞろくみゆく女おづく月サゲふをのあふはりしと
業平されふおりにと思ひがんぐ池おふ入り終ひ室一き
おぞろくふりふれりはあふ別きの水とおんつはくをく
おぞろく草と恩やくよくは櫛
おぞろくとくは櫛

伊勢物語

うちの園たやそれよりおひと通ひ所ひてきふりわうりなれ
このをやれ女ありとれりうりをもおきてかへりあうるきと
れとととんあきてやるやあんかをまひうこひてせふの
かうふのれあくかうらへりおうてあくわくおとせ女へとく
をうりしてうらみうあて

風あふきの白浪と山巣すや君うむうの後

古今集ふ人ちて歌詞書云あはん人うむう者太和國かくはん人吉
むを先小あらんきみうりうりがこの女親もおく成て家もよろくおり
りうりうりうれおととくうられふ人があひうりうりうりうれおれ
おととくうれおととくうれおととくうれおととくうれおととく
いくとふ男れんなりくふと心もや育むうこうひく月の面白
ううあれ衣うりくまねあくせんさんになうかくまくま
見えり神を夜ふうたまく琴張うれ形うりうううううう
このうとがよくうれ形ふきれうううううううううう
ぬうう成ふうううううううううううううううう

花岡山神社立村小ありは北度長中の残場と南方軍記小詳
 御祖神社大瀬村小あり延喜式出二代實錄云貞觀二年十一月
 授正五位下是の生土神ト

鴨神社大竹村小あり鴨森と延喜式出

今弦坐所ト

河内郡東も和州平群那の界限あり而之の界を限り
 南も高安郡の界を限り北も櫛良郡の界を限る

伊駒山高那の東小あり和州小瀬也故不知名所

春日戸社坐御子神社延喜式神名帳河内國高安郡の部下に在り
 又三代實錄云貞觀元年正月授從五位上

今弦坐所ト

我富の指志立本有り申ふ生駒の山也又可なり
 わこのや大にの事本有り申ふ生駒山也

ひくも近うなれ今へあらぐみはういおひそりてけこのうとくの
 そつたるをよくもさうしてのまつたるをの女とわの方とえりて
 あらあらうとほくらむほ駒山もかうそゑいよら
 せつひくと見つめにしてやましくさんとつづく修業してまわふ
 たひくもれぬれと

君ち今つゝて來てよきめいたのすねりのこへゆきをゆ
 といひられとれととを極めよなれ
 伊勢物語の後書古集アリタマ所謂關疑カニギ傳。冠盤カハシ御。雲見クニミ御。
 絶抄。拾穗抄。弘考。業平。自。書。鑑。年。よしの伊勢御の
 書。加く。ちんすと。かがく。又其傳。小も生。一。モ。那。の。お。活。か。ん
 少。業。年。の。自。か。書。ウ。一。モ。那。又。伊。勢。御。の。補。遺。一。経。小。も。か。
 物。鐵。の。古。人。文。稿。を。み。や。び。底。う。あ。一。モ。那。又。伊。勢。御。の。補。遺。一。経。小。も。か。
 其證も其時代。高貴の人名。名を。あ。一。モ。那。又。伊。勢。御。の。補。遺。一。経。多。業。平。
 伊勢の影。御。小。モ。那。又。伊。勢。御。の。補。遺。一。伊。勢。御。の。題。号。と。傳。ゆ。し。傳。ゆ。し。傳。ゆ。し。
 年。ち。り。好。色。の。年。と。御。書。清。ね。う。う。里。下。一。傳。ゆ。し。傳。ゆ。し。傳。ゆ。し。

詳。解。古。意。ふ

お祝ひの氣流しやるめん事つまればわうふりあう

生駒山をもふ鷲尾の神お坐てめみ色からぬ雲すれ丈空

大保正
移養

法の月久しくもとろくとくもとく歎くふりあえりしり
後古

正三位
思定

御野縣主神社 鎧敷延喜式出上ノ鳴村拂野郷ほのむらすあり 今天日社

寺井

福萬寺村小石

津

原神社 延喜式出市場村律原張の側すあり 今玉軒明神

池島觀音

正觀音と安

恩智川

源高安郡恩智村のゆき流す 千郡福萬寺村起坐と

恩

智川

源高安郡恩智村のゆき流す 千郡福萬寺村起坐と

岩瀧山牲生院

六萬寺村すあり 浮士家京昨智恩院小属を

岩瀧山

牲生院

六萬寺村すあり 浮士家京昨智恩院小属を

本尊阿彌陀佛

聖德左子津祀座像 般若波羅蜜多經

本尊

阿彌陀佛

長三尺許

補

正成塔

鑄云從五位上橘朝臣正成靈光寺大圓義龍大居士

額

石瀧山

聖武勅宸輪

往生院

設陽城院の宸輪

親

寄聖人像

船不詳

中興安助上人傳記

京昨柳枝軒

補

正行墓

建追極を

船

不詳

中興安助上人傳記

京昨柳枝軒

補

正成塔

鑄云從五位上橘朝臣正成靈光寺大圓義龍大居士

額

石瀧山

聖武勅宸輪

往生院

設陽城院の宸輪

親

寄聖人像

船不詳

補

正行墓

建追極を

船

不詳

中興安助上人傳記

京昨柳枝軒

補

正成塔

鑄云從五位上橘朝臣正成靈光寺大圓義龍大居士

額

石瀧山

聖武勅宸輪

往生院

設陽城院の宸輪

親

寄聖人像

船不詳

補

正行墓

建追極を

船

不詳

中興安助上人傳記

京昨柳枝軒

補

正行墓

建追極を

船

不詳

中興安助上人傳記

京昨柳枝軒

補

正行墓

建追極を

船

不詳

中興安助上人傳記

京昨柳枝軒

王子衆とて四人の社家其苗六萬寺の旧記を傳へ。山村小野は社主額の荒蕪弘歎と系井の堂上翁へ言上。一室堂小ニモ佛を安。常に念佛の道場也。故いふ。一室堂者山嶽をもよおした。停駒鳴川鬼取ふきぐれく修羅練りの地とし。ゆゑに當ふ女人の系統をやく夕をせふ女人の火事もとぞ称し。一室堂。

櫻井其味あり。齒山山中川。大觀岩津古原。神龜掛穴上。圓鬼石八葉峯。金松池八葉峯。鬼足印小觀岩。椎者窟若井頭。雨樹雨樹。樹義鷗義鷗。九重塙址正行城址。堂之芝芝。釋迦殿釋迦殿。

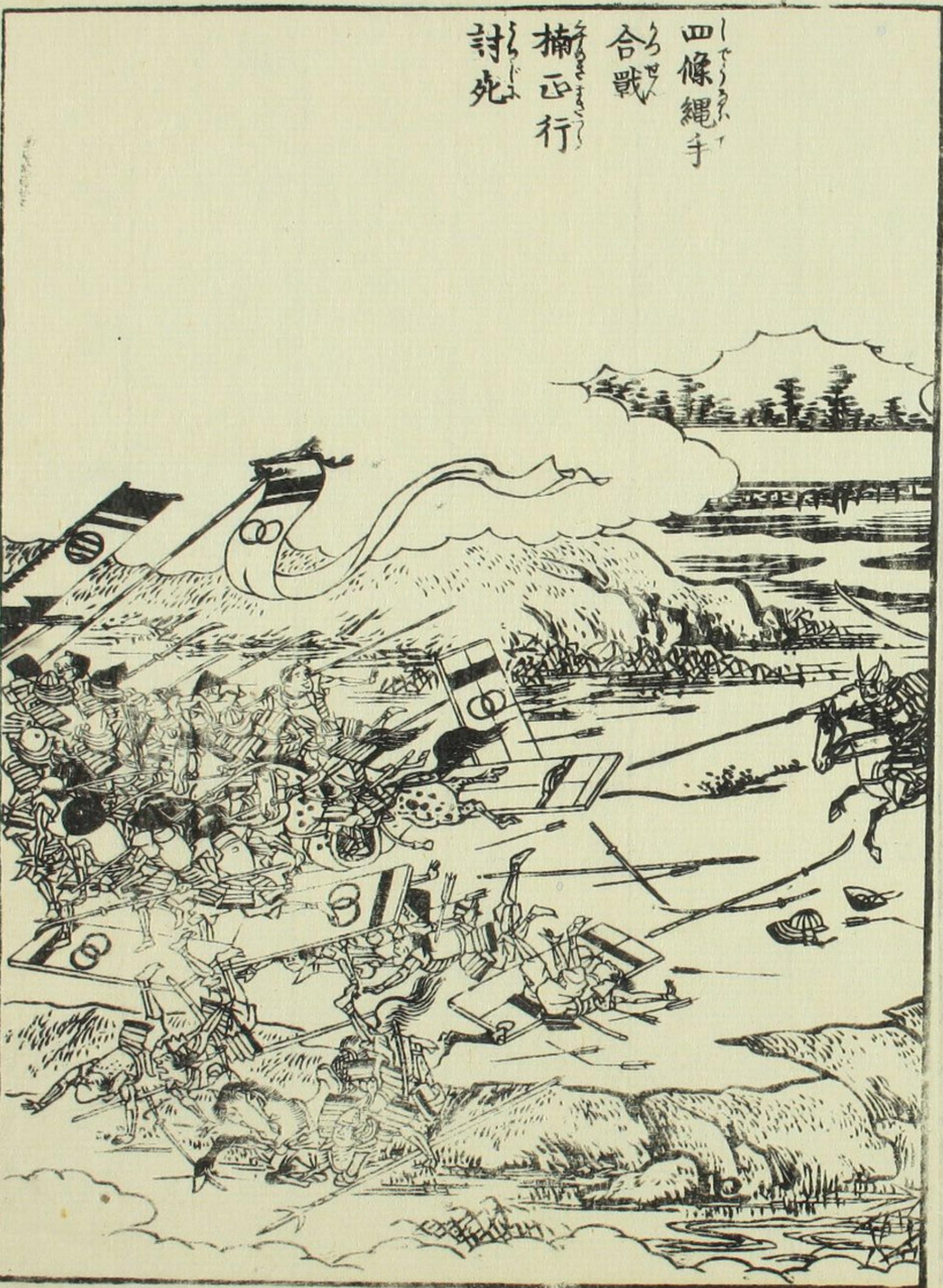
梶無神社鎧延喜式出六萬寺村の属邑。桜井小あり。今船山明神と稱れ。社の小ふ梶無といふ地名あり。

櫻井

桜井村小あり。櫻殿。

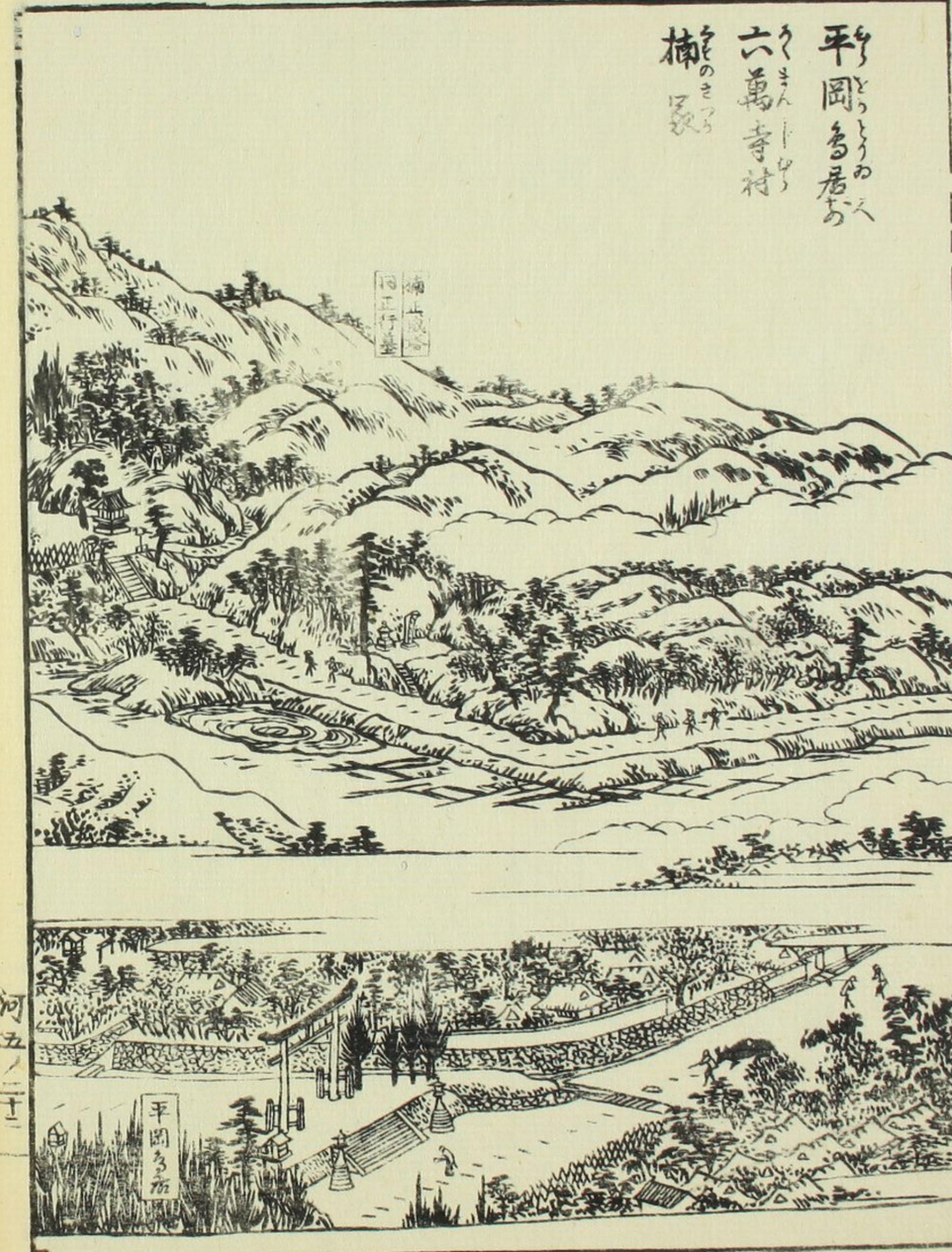
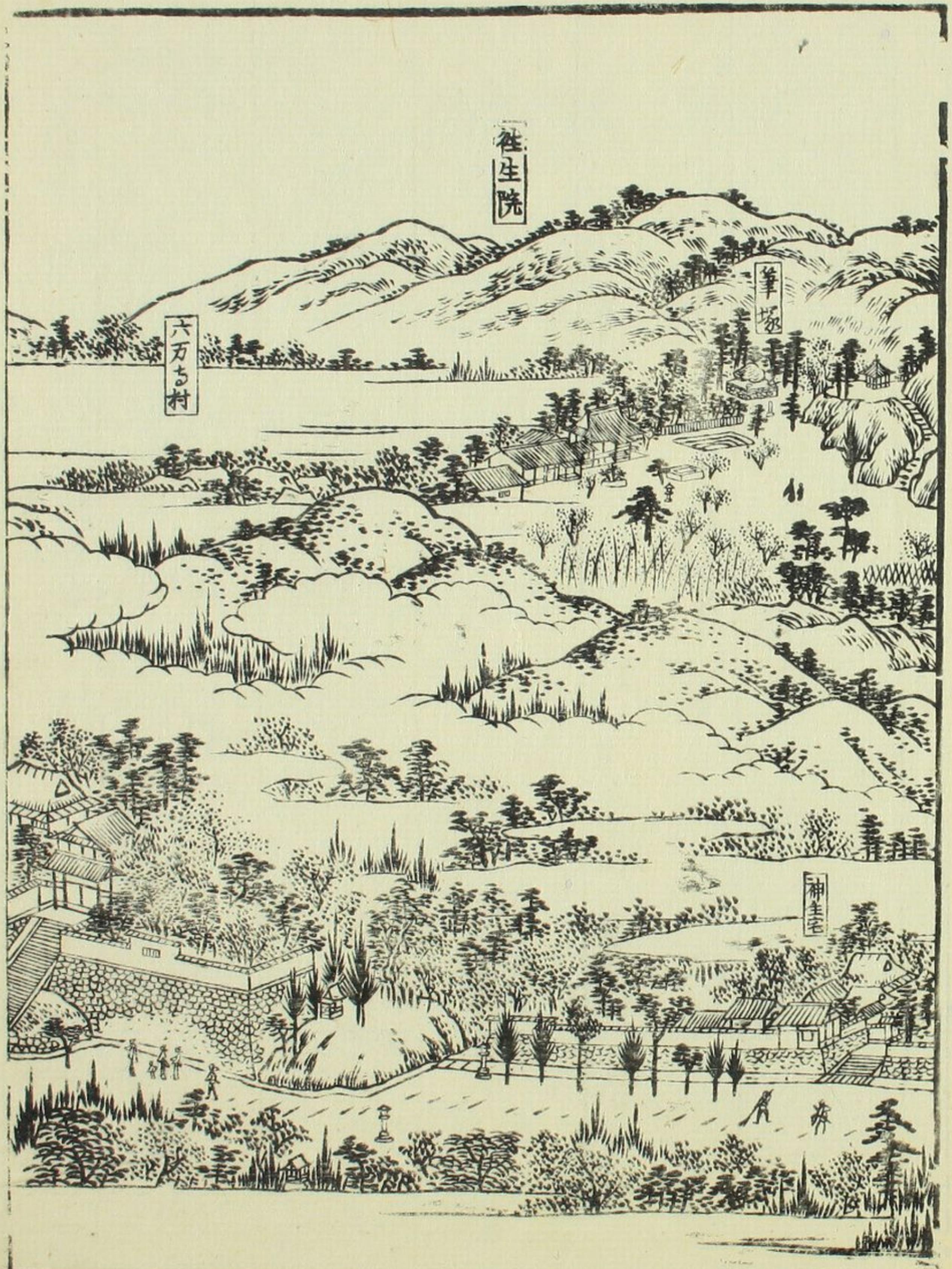
四條畷戰場太平記云。正行城死の所。又或云四条繩子へ傷戻郡北条村小あり。と云。高師直陣奉る淀八幡小城年して猶諸國の勢と待調へ。洞内へ向ふべーを議。一夕大捕已小逆害ふせん爲小吉野參く勝。やし。今日酒内の往生院小角ぬや闇へろを昨泰。まつ正月二日淀派立く武萬竹騎和泉の場乃浦小陣を取。陣直も翌日二日の船入膳を立く六万條駿四條繩子ふ着は假やぞ相迎。公がも预定く難討を承ふ。あてを相待らん寄て。も

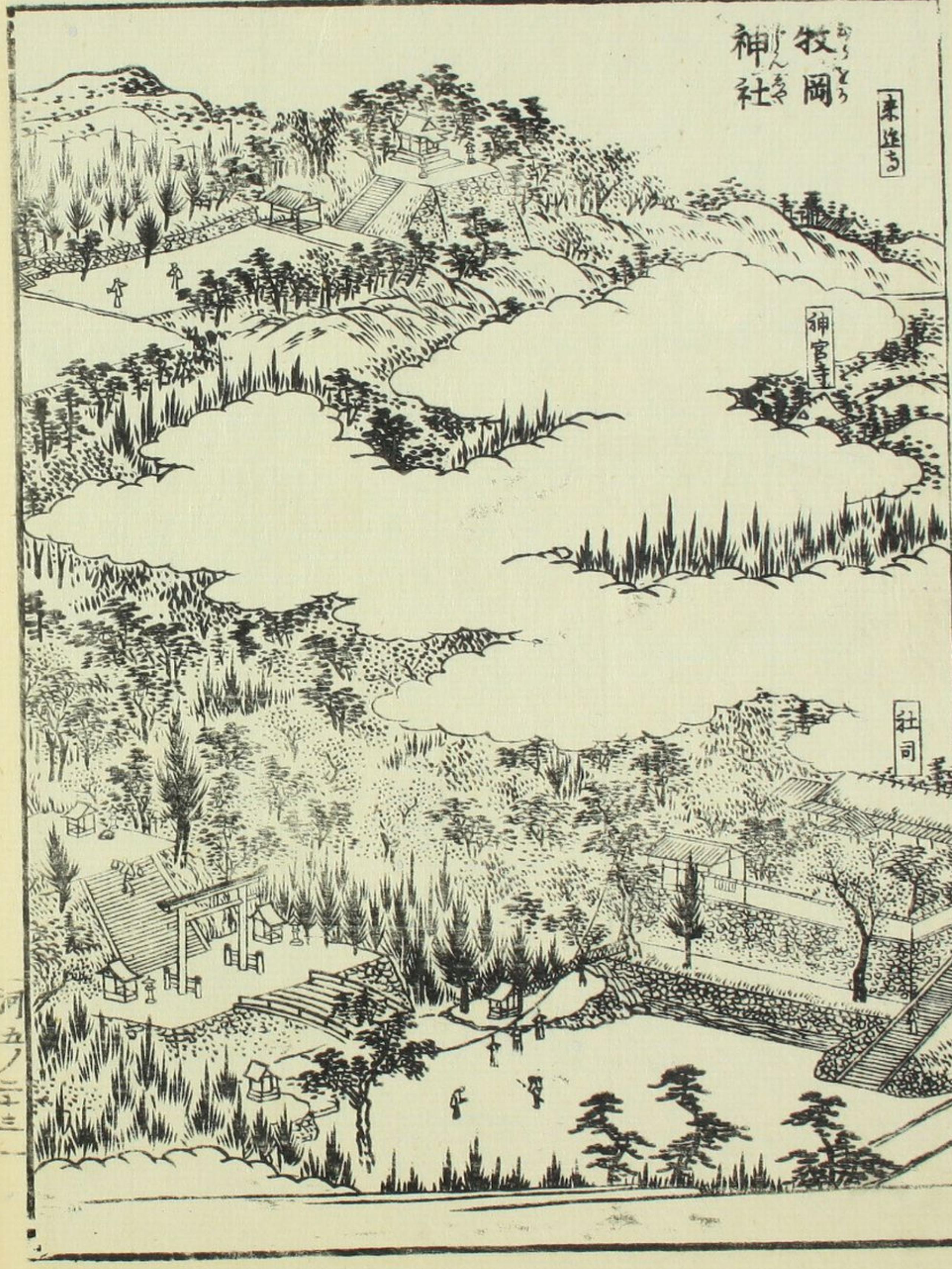
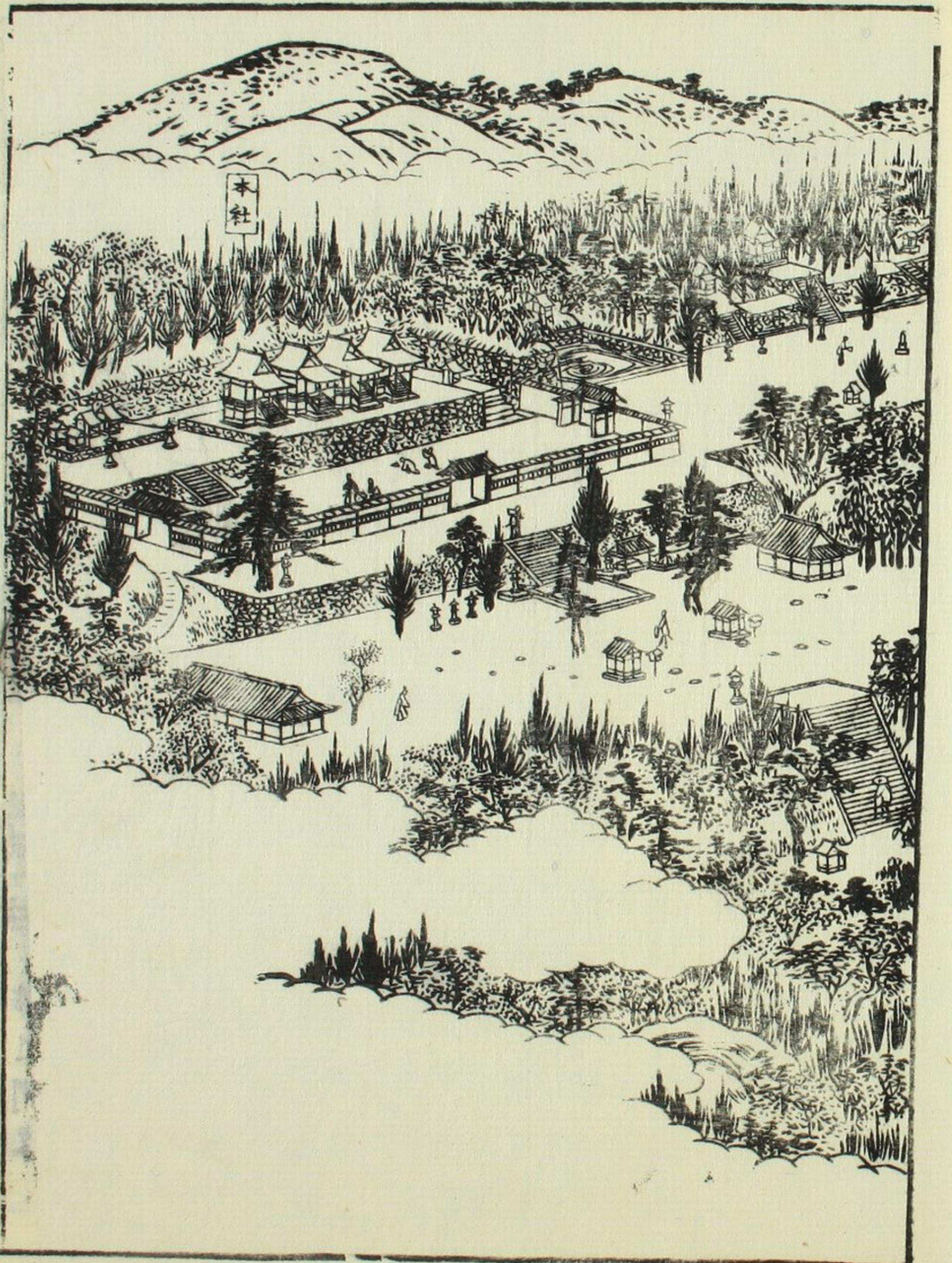
矢也。寄らむく便あらず。まく三軍五所不分。是爲雲の陣をかく。傳不設け陽不備。中男。捕。刀。正行。全。身。正時。和田新兵馬高家。全。身。計。意。陣代。鶴。翼。立。三千。條。駿。と。率。り。く。鹿。尾。れ。う。暮。直。不。四。條。繩。子。抑。矣。も。づ。候。の破。駕。け。散。さ。ば。大。將。師。直。不。寄。食。く。勝。負。決。せ。ん。と。が。も。搬。議。甚。進。ふ。う。縣。下。野。守。ひ。向。旗。一。揆。頭。ゆ。く。遠。の。峯。ふ。む。う。う。あ。菊。水。の。経。只。一。流。是。非。か。く。民。多。也。の。陣。の。入。り。と。主。筋。を。見。く。北。の。岡。う。駆。り。を。馬。う。も。く。と。飛。下。て。た。今。敵。が。い。入。ら。ん。や。十。侍。道。弘。一。文。字。小。遞。と。東。面。不。相。と。立。う。徒。立。不。威。く。甚。筋。け。く。勇。氣。熾。あ。う。捕。勢。僅。小。徒。立。不。恐。る。欲。然。身。く。些。強。だ。こ。す。小。分。う。赤。陣。の。五。百。條。駿。國。を。守。耐。て。即。ち。京。勢。秋。山。弥。次。郎。大。草。二。郎。左。衛。門。二。人。直。筋。不。追。ぐ。射。箭。三。房。居。野。七。郎。是。を。見。く。款。小。氣。と。付。ト。と。松。山。が。附。く。上。公。免。越。て。夏。を。あ。秋。で。そ。や。射。向。の。袖。を。扣。く。小。跳。じ。て。進。ぐ。う。欲。東。あ。う。兩。の。摩。揚。ふ。射。る。え。ふ。され。も。内。甲。草。指。の。端。二。所。蒐。深。射。ね。く。左。刀。と。例。不。使。く。其。手。伏。被。人。と。立。て。か。所。を。和。田。新。裏。え。蒐。寄。て。首。捨。切。て。戻。す。う。下。署。



一河五ノ二十一







牧國神社四座

東

出雲井村

大日靈尊

二天天津

鬼屋根命

武藏

豐磐間户命

御磐同戶命

天御云命

三經津主命

天御雲命

天御雲命

其外末社多

祭神

壹

大日靈尊

二

天津鬼屋根命

武藏

豐磐間户命

御磐同戶命

天御云命

三經津主命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

其外末社多

若宮

辛社

南不吉

天御雲命

末社

石隨

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

猿田彥祠

申宮の有

天御雲命

末社

石隨

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

天御雲命

延喜式

云

大月

次

相

嘗新

嘗和

六

年冬

十

月

接

正三位

實錄

神

正

勲

二等

相

天兒屋

根

命

從二

位

從四

位

上接

比三位

子代

比三位

差三位

神料

貞

子代

比三位

琴祇

布七

根錄

和命

日

正

貞

觀

位

正

貞

觀

位

正

奉幣

永

以

為

例

前

事

鴻

春

日

大

原

野

神

春

冬

二

祭

根源

云

神

護

景

元

年

六

月

廿一日

武

火

七

日

廿一

日

正

月

中臣

平岡

人

供

四

人

事

立

為

恒

原

野

神

春

冬

二

祭

河

河五
二十四

天下小威を聞く者おへ 於是上奏して曰近幸足利天子の權を
株へ 一ノ官領互小鉢先がモトへ王風裏弊へて天業輝く
幸かへ 不佞尾列小出誕の時母爰の中ふ日輪を看ゆ見ゆ姫
身を依て日輪の照き所麾下小属せだとつ幸取へ和ねども
三軍五兵の運と徳の末めりと申せば願ひ勅伏下へと圓白乃
手職を許し終て仁政を施へ國民を教育せん王道舊小保へ
四海清平取へんや奏へ終て百官儀奏へて亟乎勅許ふ幸
極うる時小近衛前久公 回圓向と執柄の職うへて武衆され
任ざるの例へキと聞けむへと 天子の外戚援祿の外され不任
主例かへて獨避て終て猶れども早勅免あれを是非かく
龍山公蘆摩園へた遷の拂身とぞ咸りて猶れどもニ紫も經ぞ
一ノ御宿へ終ふと我聞くへて拂下向の御も拂船ふれざれ渡波
深江に河底の底不濟舟が爲れ河内岡平岡明神より遠徂天鬼

屋根の御神うれをこうふ猪へ拂りて其時神前坐拂あす
拂きりて近衛もそれかへて身と百發かと遠浦守 猪山公
ちあくせはうの果さて序下向うと身旅へ留別の拂くろみや
神酒灰戴を拂らんやく拂土器を乞せりと其神罟忽然や
被れ小立り神人聲と拂土器を乞り又辟く前のかへ故ふ前久公不
思議小おほへ先へひ度る者不神酒灰拂られ役小明神へされかひ
ゆと悉も拂りて神人從者も皆將のそひを拂へ小立は公拂神の
遠殊拂へる者無ふりてせゆ人特ゆと徳の勝をもせぬへくて
仰あ焉も拂りしやと人々齊異のそひ拂へふる拂龍山公と歲
星の星ともいは爲たるを賢者位小立に時と徳星天小見る。夫
齊山周の栗狐答へ屈平が麻直へと謹人高く張り黙々へり
子陵も嚴子難ふ拂まく拂代を拂これ賢者もの病焉へる。平岡
明神の公の精誠する實をもりて拂く拂土器灰手小取かりゆす

又神徳の新きらり其うり額田村の眞あら不動寺長尾瀧など見
めぐりゆき浦船ふぢれ八重の浪風をまのたうりまがくみ等

おもむことね

とつまの國額達那ふ天医寧成門建立ありて

川のうねあく小北蛇の神とひりゆき浦浪とせよそしん

喜山公

山中か りの瀧

名寄

さ川生のこゑのく祭乃う宿や候これやけくは墨士といふ人

右の旨記る寛永十九年御多額の後胤葛田從五位上修理權主是原室
慶の書され額田寺社編起の奥書み粗ノノ二年中の
後御屋瀧治中て滑東野懸寺銀閣の風景が當へりひは寺小
御居一作文元禄十二年己卯の秋天下旱甚き其時近衛開白
大政大臣基熙公祈雨の御詠歌御前奉行小遊子れ浦短冊と下し奉れ
大明神の神殿へ納まつて忽靈而額子一五穀豊饒を其時乃
降す

比良とふあぬうてうきに神乃の民とくとあられどに

此御短冊神主多居氏ふをば後旱の時御雨ふ神殿へ持げてくとお令あり

て多居忠勝へ移ふとて忠神

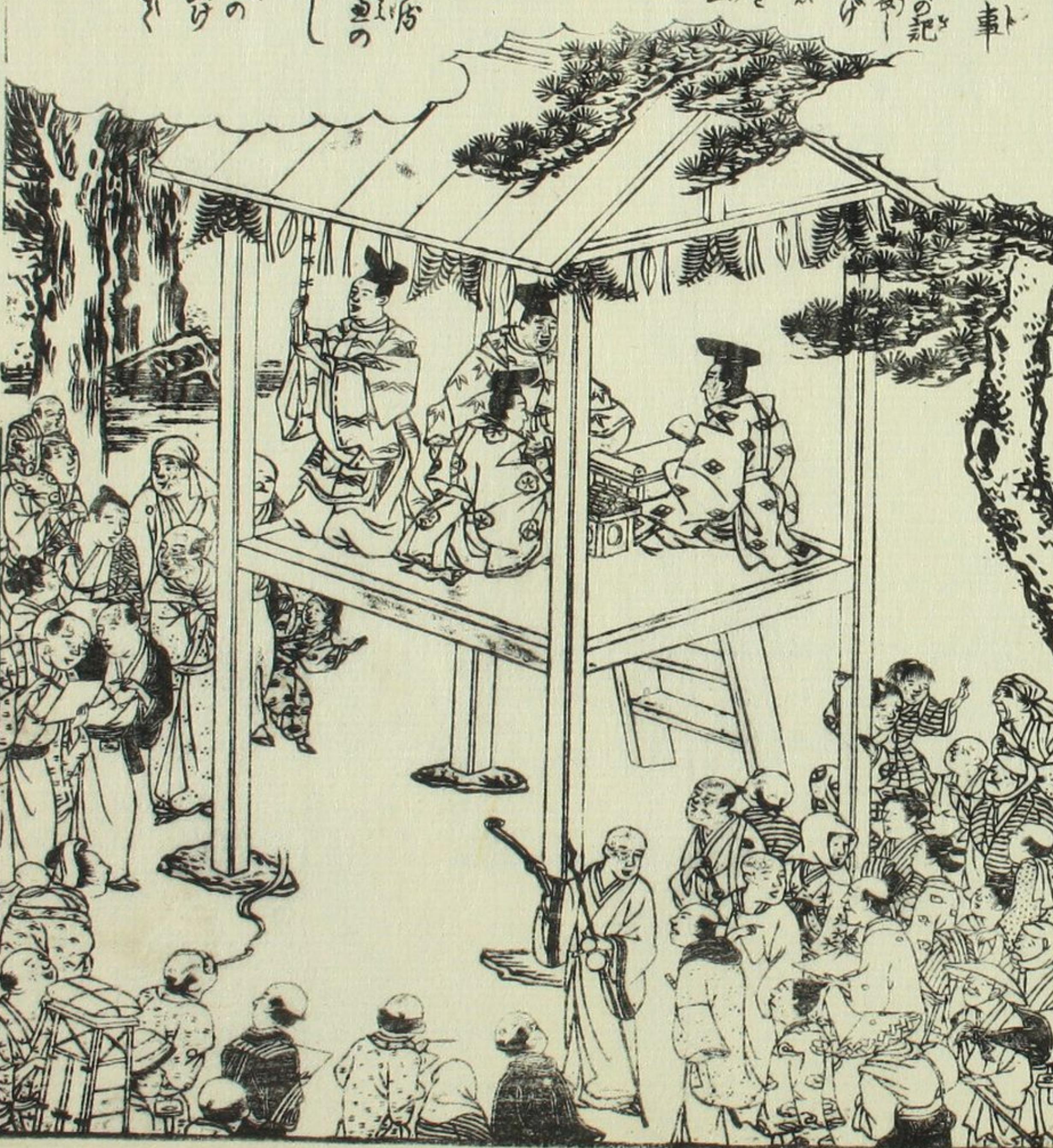
寶基 杜明神の孫也と傳來一ノノ形

平忌ひさゝ尾花塚 うま事地圖成り夏見河

御辟石

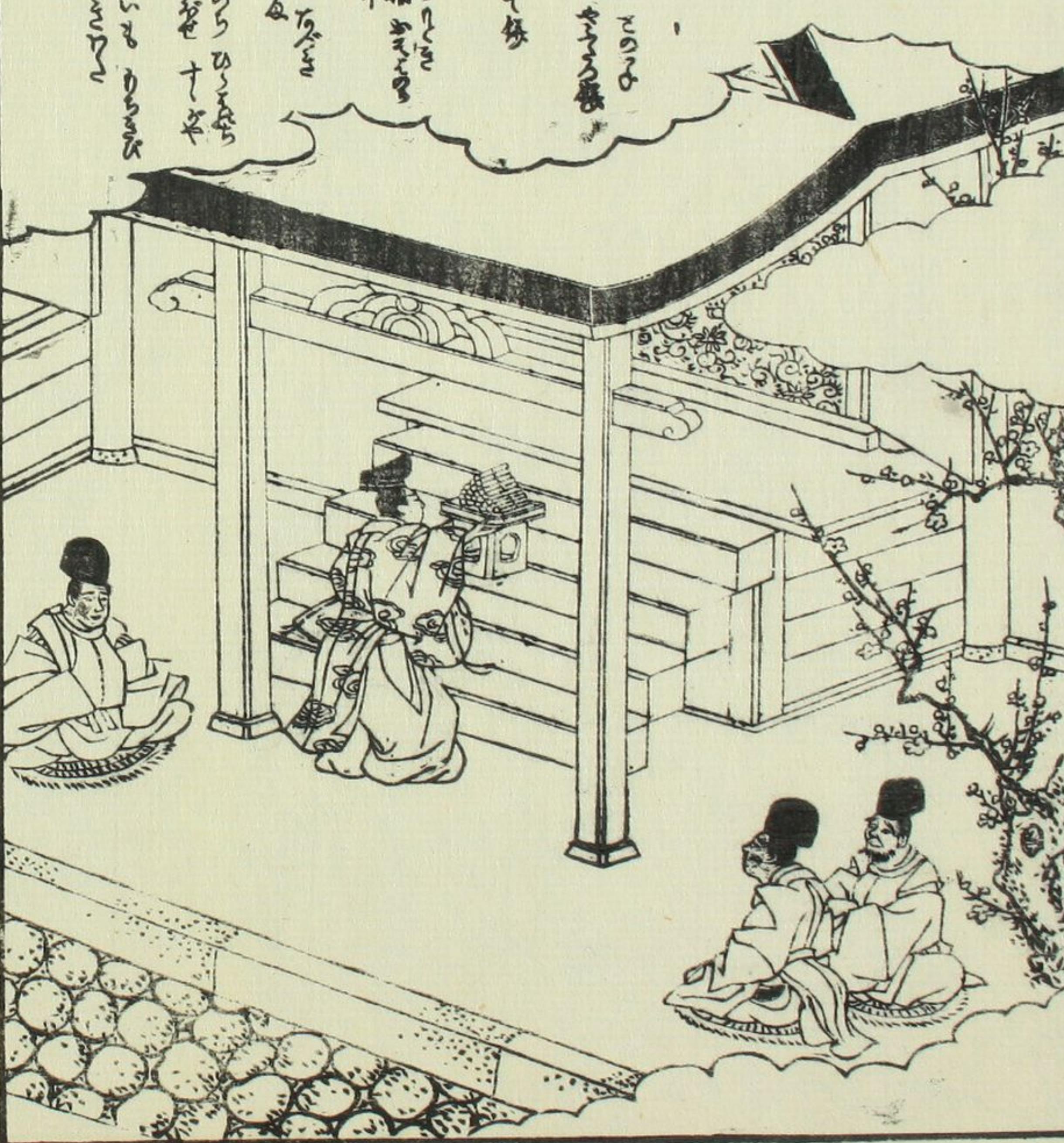
四位の格とせん千代古道 お居の木乃

河五ノ二十六



其二

廟
神
御
神
主
鳥
居
氏
乃
松
坂
其
社
家
中
其
之
御
之
記



河五ノ二十七

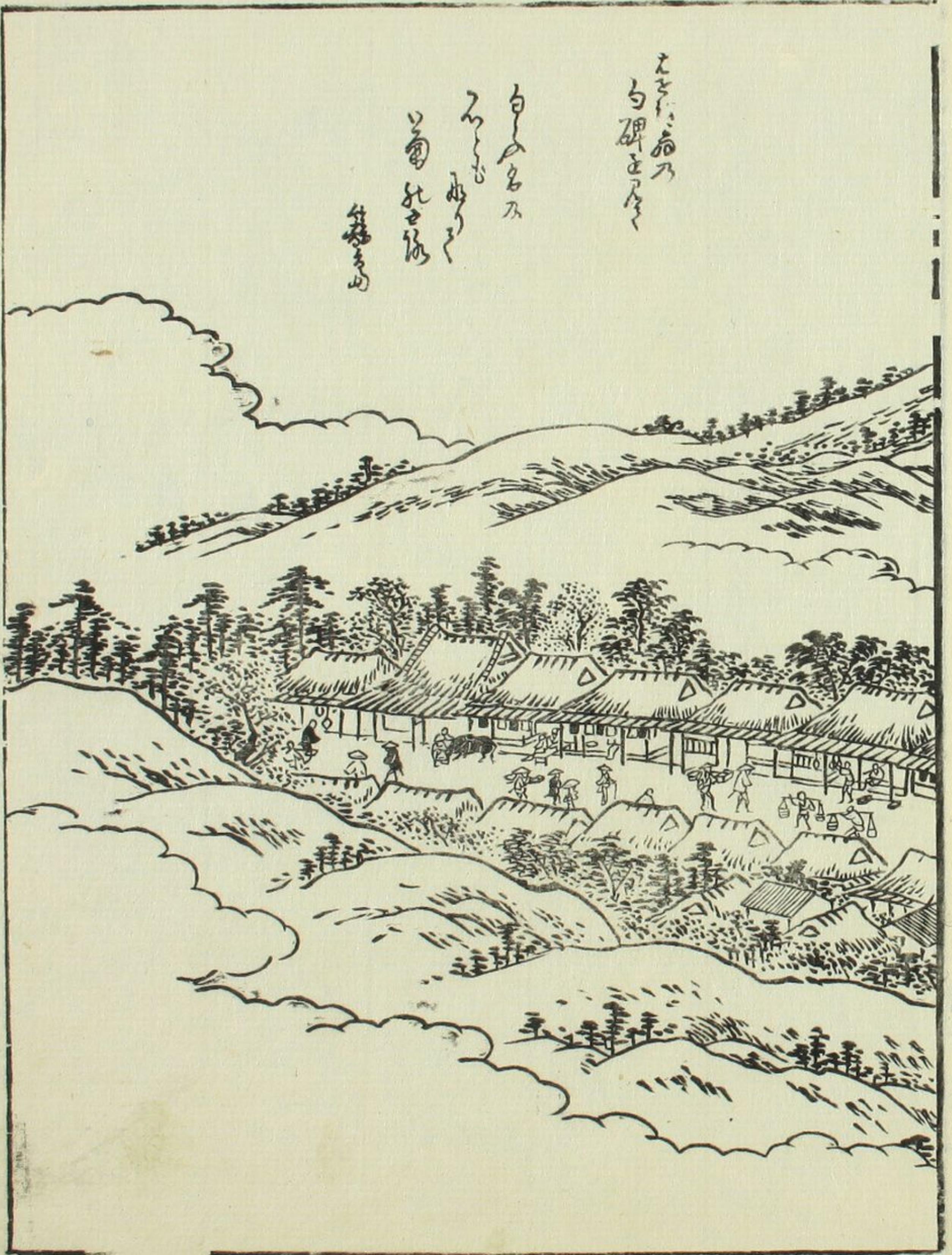
解除川 神あの細 夏 猪峯 川 皇天門 神あの門
行合橋 夏 猪峯川 かぐ はがく 御簾所 豊浦村属村 猪峯と新あら
瀬 占神事 每年正月十五日 豊浦 年終 トキツ年 明
五穀の豊收を

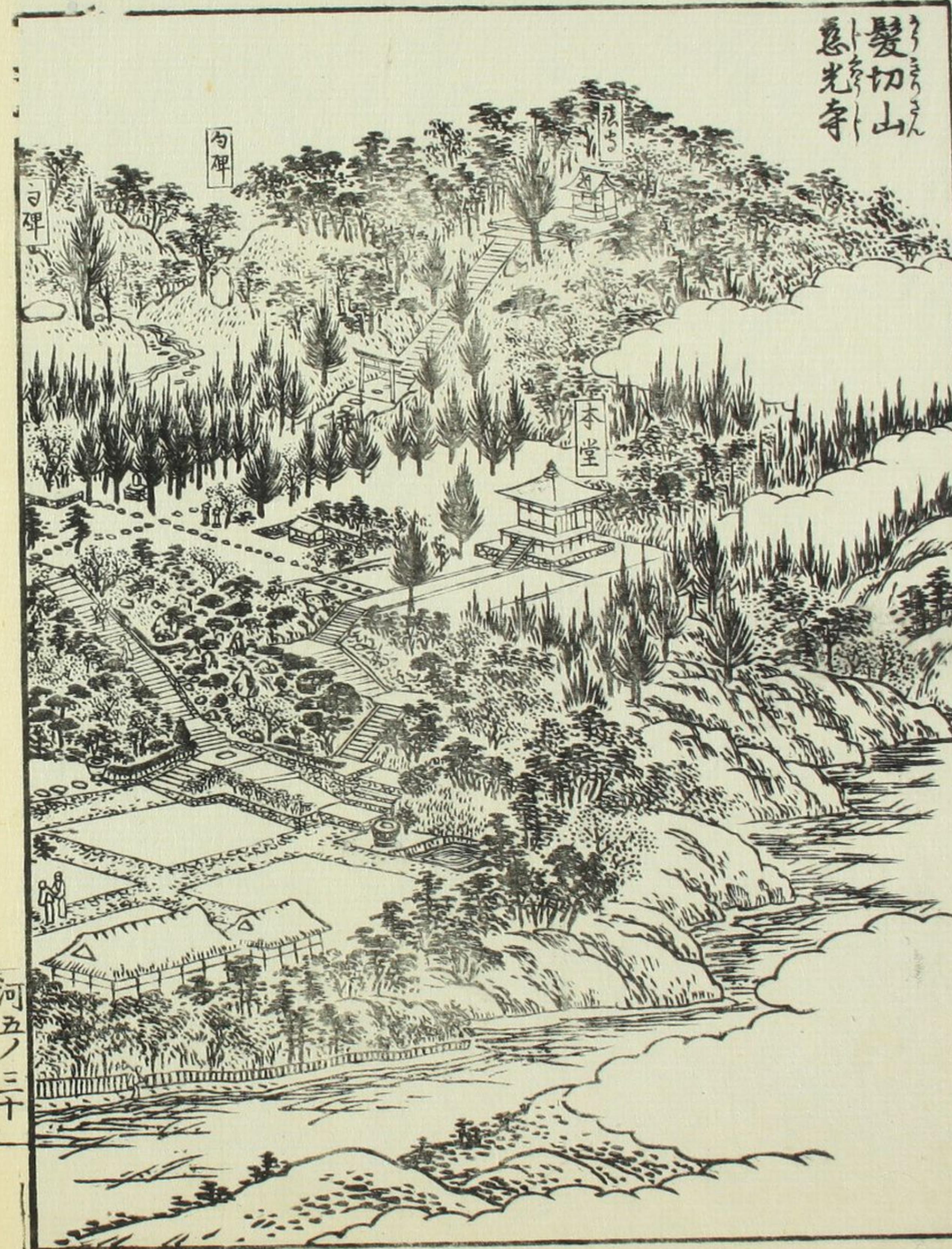
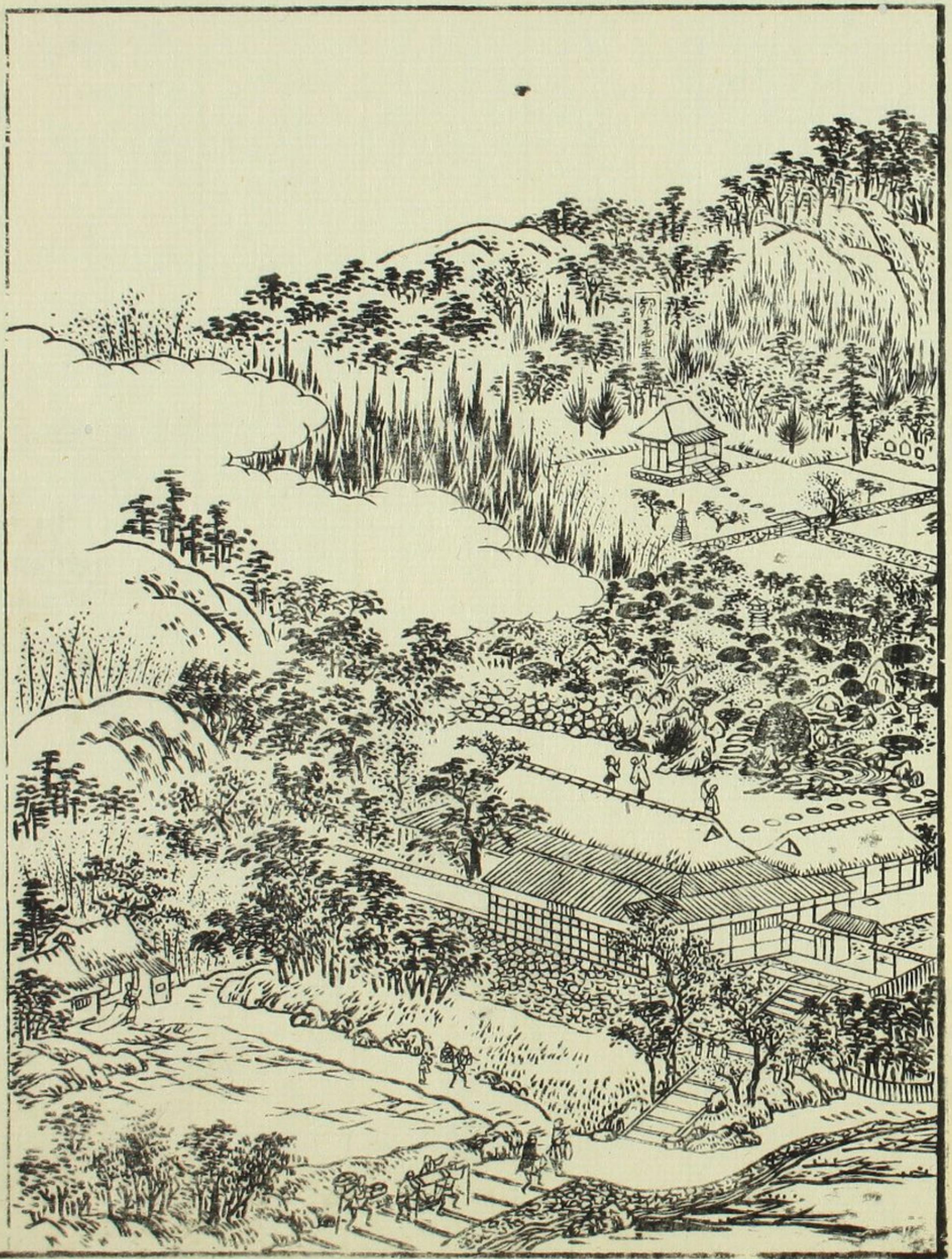
姫ト思ふ牛の若魚鱗 おもゆく 住遷の人の返し瓜生子を載
占 宮東身ふ一ミワニサ秋乃風 豊浦
末耜

栗原神社 延喜式出 右原村トあり

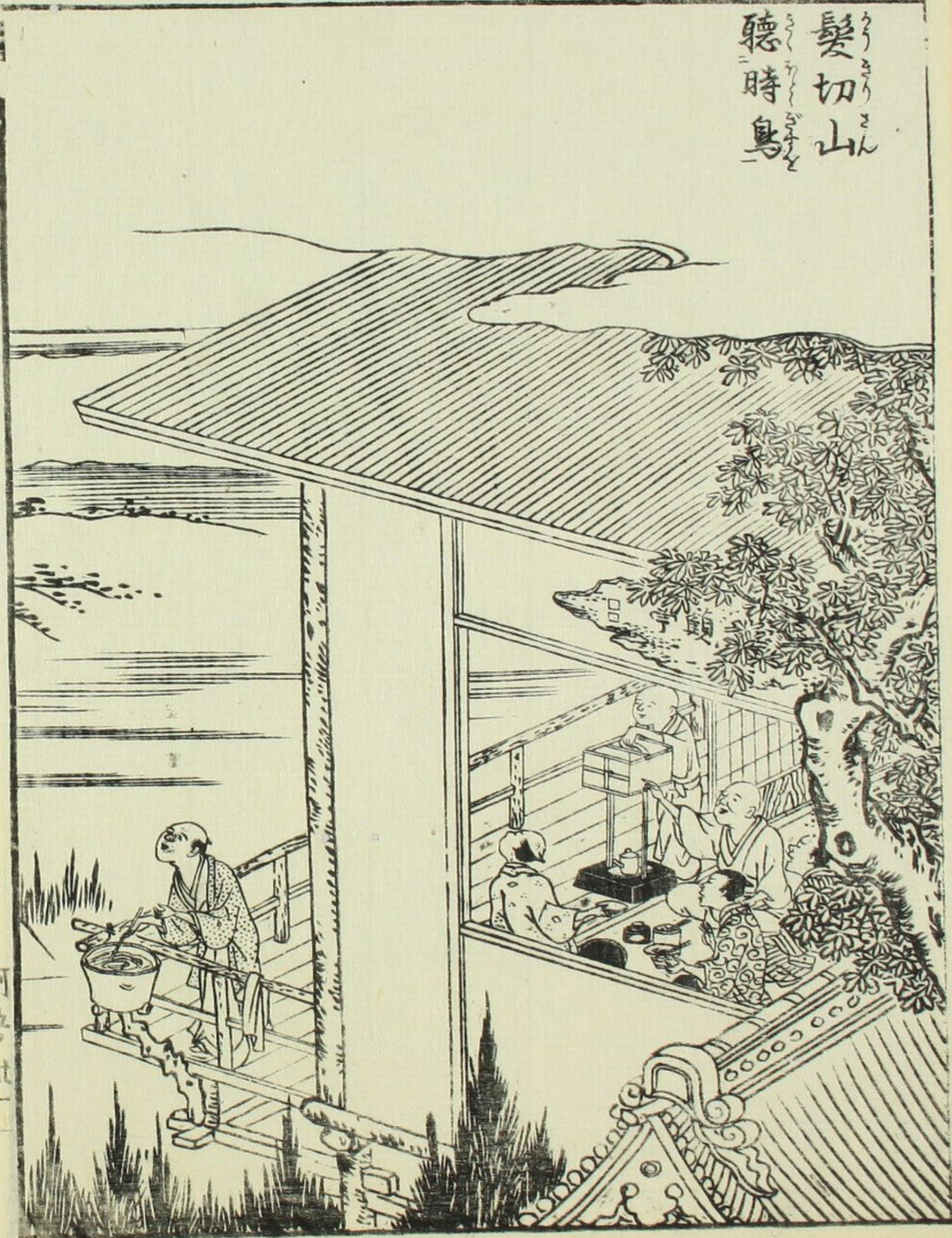
端ケ大 夏 猪峯川の間不歩く住遷の人の返し瓜生子を載
大坂 の者を所 ふ東トまき おもゆく 早中毛成
大津神社 延喜式出 旧水走村





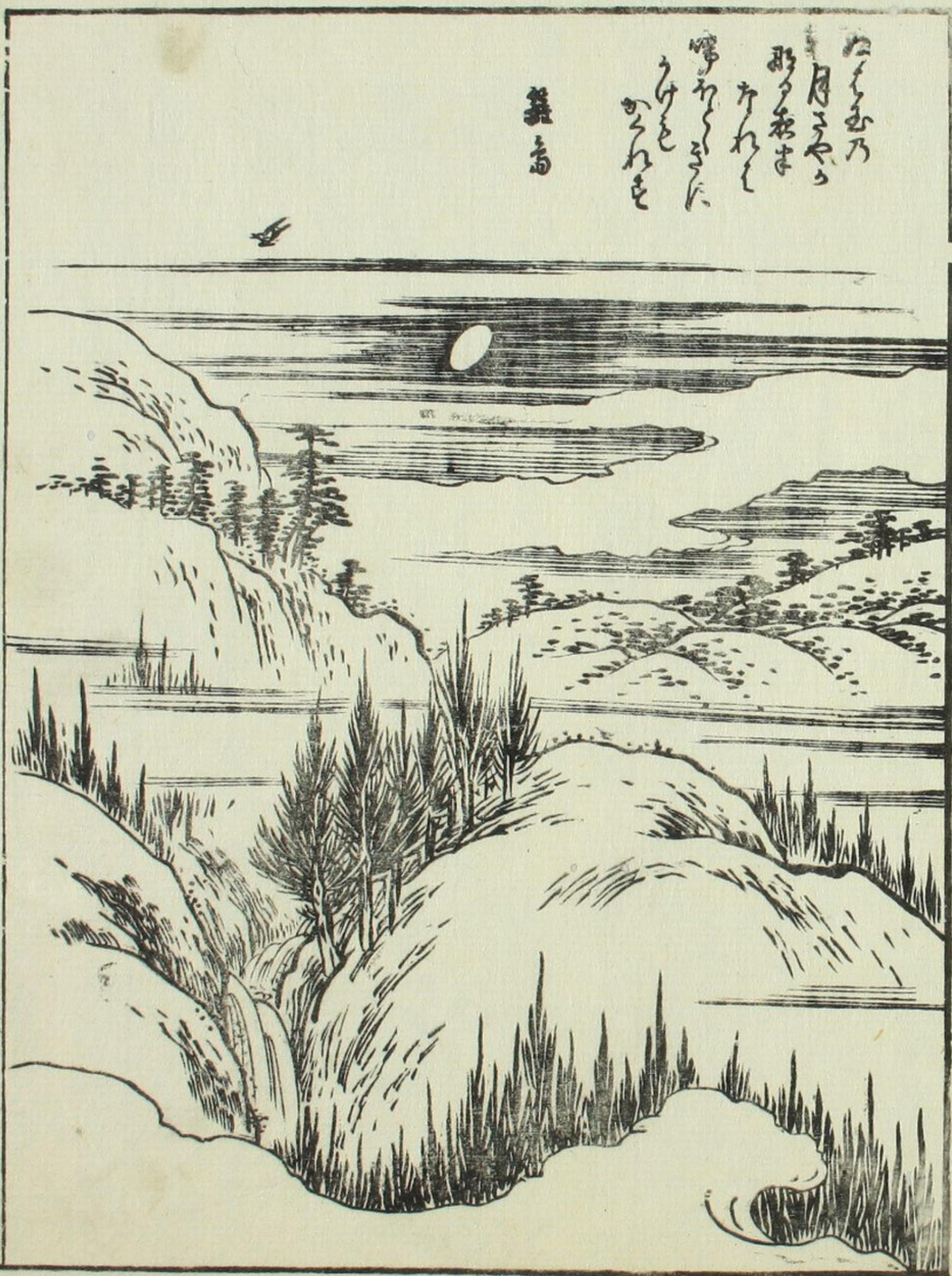


鬚切山
聴時鳥



ぬくみ乃
月えやう
歌うあは
かわく
うきと
かねを

義高



先立く流り河へこれ堵中の湯の邊をあへり豈くふ異うば
きハ馬場信武の平朝天文志小見へ

棟ヶ嶺津奈富道より歸村小栗宿旅舍多一車の駕小河内大和の
圍場あり生駒の山廻り築く小様ふと故ふ様子根の名あり
一役小川ふ乃松林小島屋一時うるゝれをかく名付くも
御天正の頃豊臣秀長郡山の城を築いたゆの時

代取今ふ太樹

進須寛政十一年己未十二月豊浦村の末船は向碑棟ヶ嶺津街道の側
小遊く薦翁の一百遠忌の追総と又諸方の佛門の句と續くこれと
小冊と信光の二折の序ありく
兼の名也題号せり

髮切山慈光寺真言宗

本尊役行者龙小獨鉢空持モ
観音堂平堂の北小あり正觀音弘安に縫都下小繩持の時
鬼髮田今持心田五子塔五子の塔

鎮守小王八幡喜日

支役優婆塞と和列葛上郡茅原邑の產く母の髮小獨鉢空

際々口入ひ乍ら忽肚身一 鮎明帝六年正月朔日誕一多の日帝
三年辛卯十月廿八日
里出誕モ有リ七眾アヘテ始く慈教咒を誦モ阿鞞日之十萬遍
かマク一時うる聰明睿智にて修驗道伝する信一 年ニ十二眾の時
家父棄く葛城山小入巖窟に安居モ後半二十年餘年猿葛と夜匪
松木と食小充く神呪を誦一白雲不驚一て仙府小游遊一鬼神伏
驅逐一使合一一日城の靈巖を修歷せしとつ半期一ある時箕面
の瀧小入龍樹大士ふ謁一又金濟巖不より葛城の石橋小言主神を
促すと神異妙奇測ふ庵うだ天智高の傍時臘駒山の深溪小鬼城有
て住返これが爲小凶害マヨ行者ころを隣く其兩鬼を捕て呪縛を甚地
欲今鬼取ふやりより者竟不知かの鬼髮を擢んで地の巖陵小壁ニ兩の
役使ヤホ一金峰山も入ゆか前鬼後鬼これら行者その酒遙奉ふ油
其あ處小光明耀さうりこわをあゆミ認尼小金容の大悲像也
これをキスガ一字次營くふと髮切と称ト寺號慈光寺云

其景象は東に太和の碧嶽西小難波の滄浪を隔て自想觀の便あらずもやだ
月も皎々して千岩の水底訪ひ風も凜々て松林ふ瑟と彈む嘗て
聞む一と二ふの寺田六宇の傍房あり東海にてび葉田ある勢い
元龜の兵燹小羅く佛閣荒暴く今僅小存を舊苑荒臺楊柳

新歌りともひあうの覽古かよべ

高山と郭公の名所と雖波津及び遠近の騒人即日と月の間に
まづく油一風流を豫て柔稿を寺小誌む清か納言子親の言葉
に本心のこじ葉すとあげうひおうてりう處不事する小室も方を
角どてねぎのまへたのあふやかくせしめふかく星う
手ふ夕はきよひなどあひびくやく事にせずのまそく耳う
おほゆうすとたどくへれをつけうんと何のうちうへせんせん風
鶴ふ魁孤せられて詞か毎年邊境の武士とふ張るく置罷の白を假り
日くの風寄ふ

子親を其風流の聲まくこそ

斐切山主
花亭

河五ノ三三

不動寺 須田村長尾園（あらわ）寺（あらわ）舞尾（あらわ）舞（あらわ）舞

不動寺 真言宗平石高貴寺（こうき）小属（くわし）を

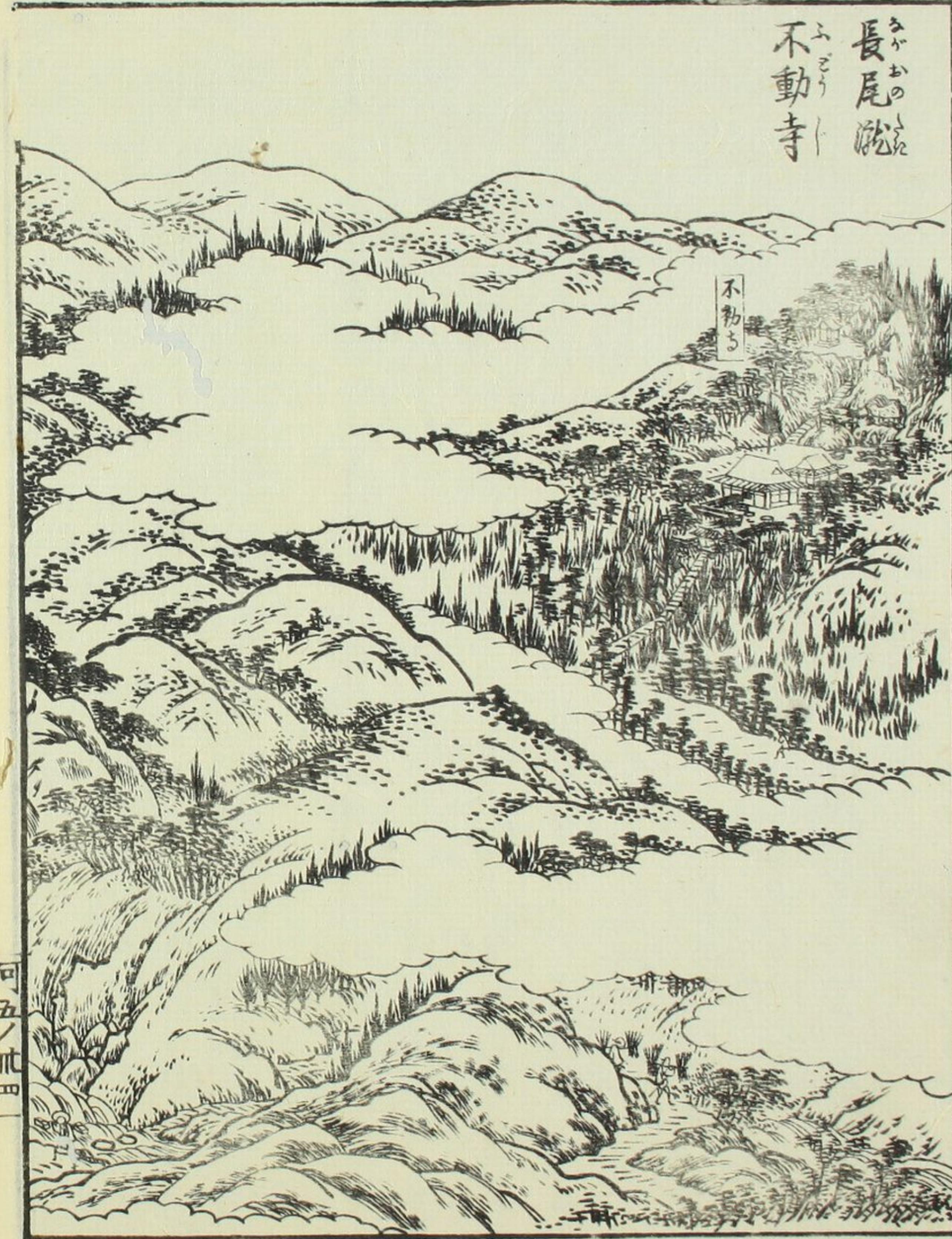
半尊不動尊 弘法大師俗長毛足八寸許 古も鐵々と
諸人よりと我年來（うき）久遠（きさ）して今健小存（うき） 加持水 修理の時用ひゆ
石碑 寺内小あり追津高肉秀育（くわ）て御傳云天正年中
築成（しゆせい）して北寺門公牧園社へ移り一時郷保の祖高肉正定
高貴寺の前去和上樂歌して岩面小窓（あらわ） 文字小金額
入（い）不持中野（なかの）ぬ

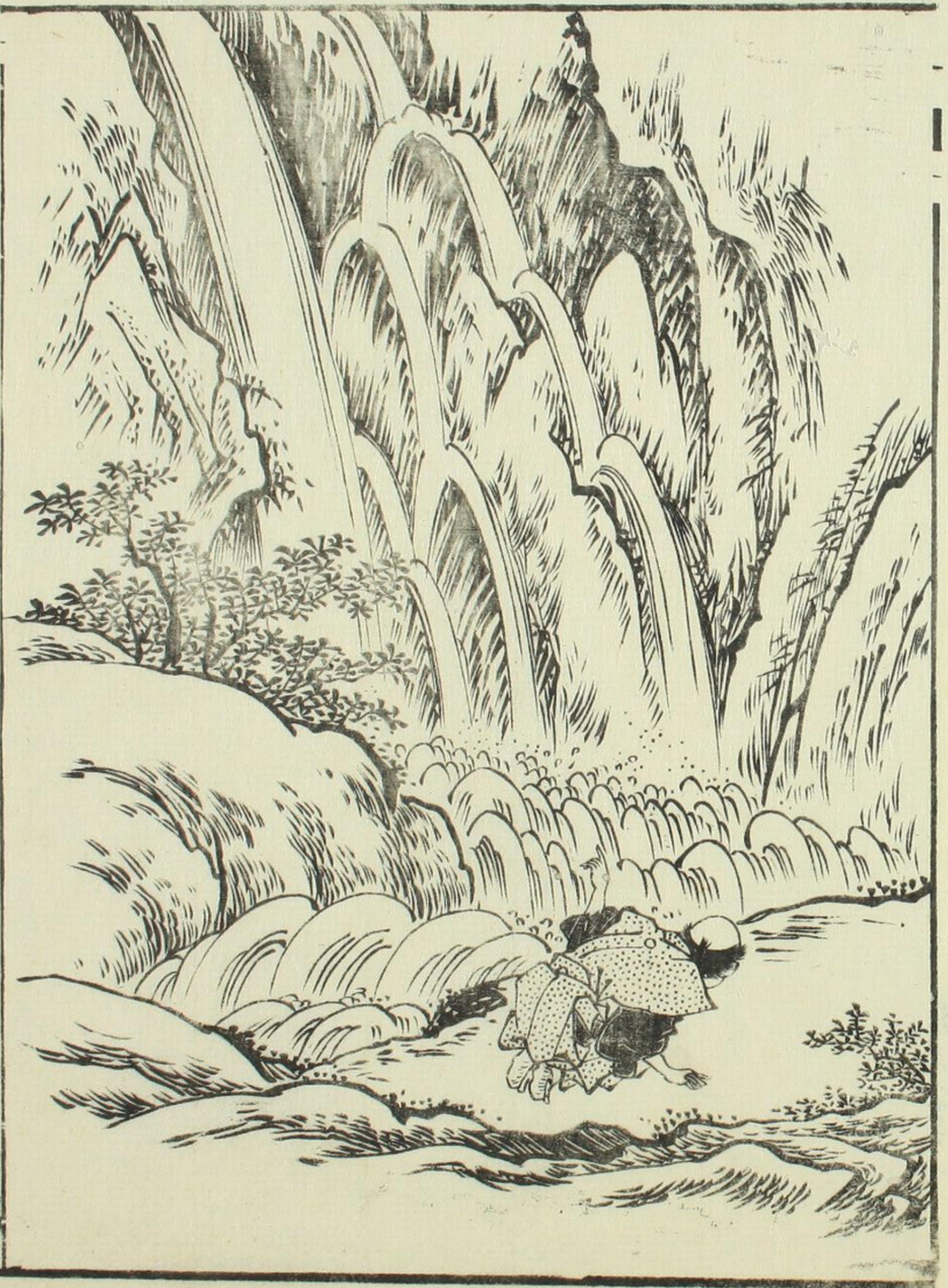
其文云

天正年の頃赤闌白道傍赤又公牧園社不持（い）ぬ
高肉正定うちて拂（はら）ちへふくせ寺不入せたまふ
枯のこ馬長尾のわらぢそく茶葉もあけてゆくひなた

斐龍房後

圓融寺又長尾寺又拂（はら）ちへふくせ長尾の傳を今小業號
をもあつてあるれ景勝を見ふ蘚蘿も松枝小樹も鳴鳥も林頭も
晴々饗烟寂々香火應々て清淨無塵の佛室あり





長尾瀧 長尾ふかあり雄飛泉高サ四丈許左右巨巖直下不落

雙龍菴 唯瀑布泉高サ五丈雄の滝の上小石り慈雲比丘

此羨龍の施泉紙見テ小雪ふ飛ぐ素練を墨石小瀧く明珠成
散毛カムハムラムハムラムハムラムハムラムハムラムハムラム
寒法を修ムハムラムハムラムハムラムハムラムハムラムハムラム
若れそのは瀧小滝ノ水を平金モ嘗て龍山公も崔嵬トテ樵路を
詠ねて其餘所の山奥小谷入セられちふくも御詠歌有は無シ
變庵庵主書カヒ高内氏岩面小築せられ其文可

天正の後赤開白前久公牧園社小説モ高内正定

路の傍シテ人馬の瀧みくらぢ

たゞすすあつとも寛にとむれ長尾のれの瀧のすゑ

額

田神祠

井母立高城入姫と申し新波の墓

神

田大神

神

田大神

神

田大神

蓑龍菴

河五ノ九六

神祠 を建テセウフニ荒蕪シテ今僅ニ小祠

高城入姫祠

紀古优美祠

皆人祠

みか便小苗村

高内氏の家小侍

仁親王の御靈

額

田寺

日村不アリ

真言宗

本尊藥師佛

度像

七寸

許日光月光十二

祥將

安久弘法

作

不

止

復り者の中高内告人寺とおどり高内村の高針御

御道

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

本尊千手觀音

長丈

弘法

作

不

止

不

止

不

復り者の中高内告人寺とおどり高内村の高針御

御道

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

高聖山へ

鷲尾山

機樹

高

内

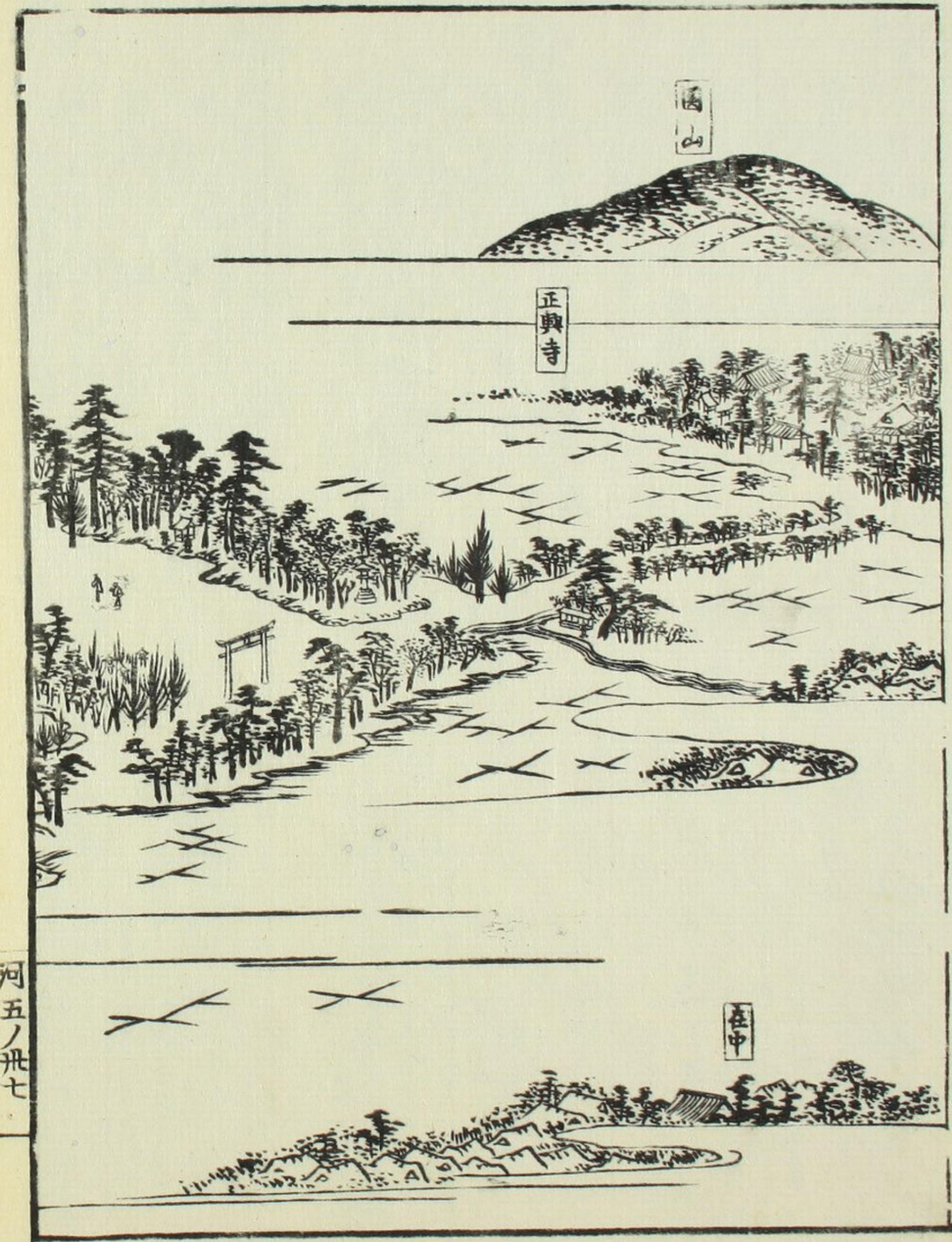
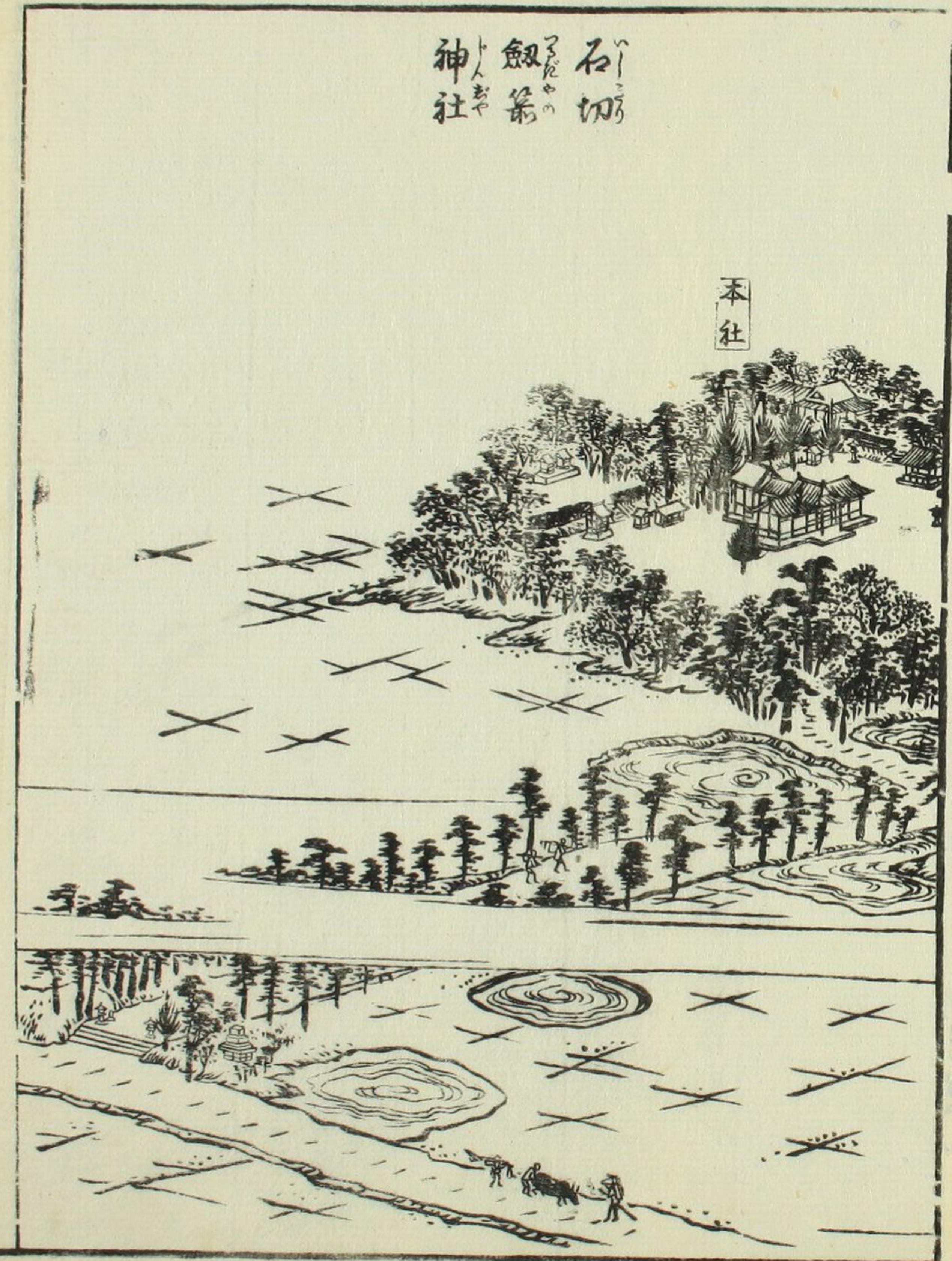
村

上方

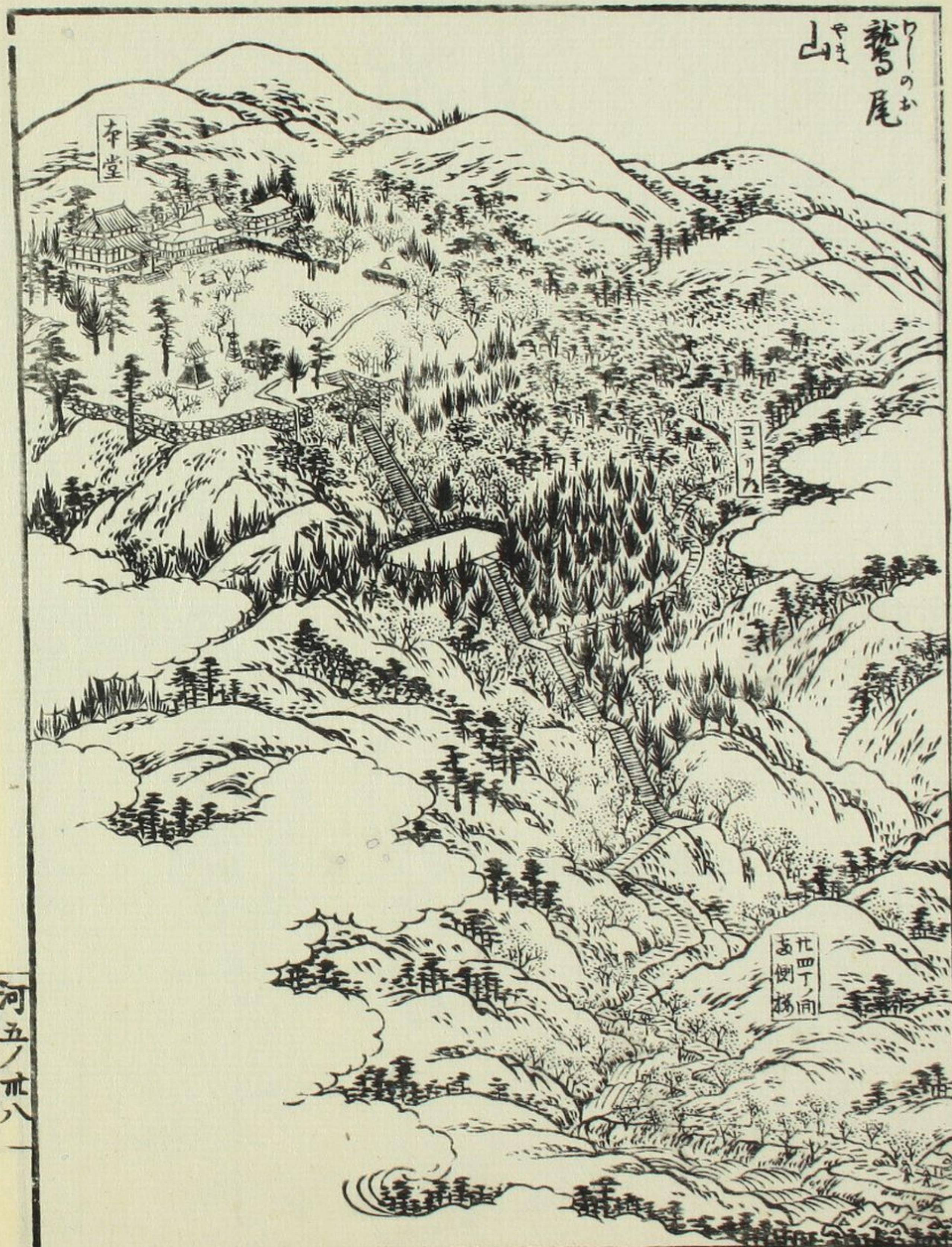
山脚

山腰

山頂



山
轡尾



石切劍篭神社二座

神 轡村小あり 延喜式出三代實羅云貞觀七年
下ノ社も赤社之例 祀六月十四日神並 芝植村額田 日向等

五ヶ村生去神 ト 神並村の上小あり 轡尾

興法守 真言宗

牛尊三面千手觀音

聖武天皇 行基大士 婆羅門等勅命

般三尺六寸

轡役り者開墓廢后り墓婆羅門等小徑入法守作也

止陽にて諸営祭當たず 年久邈矣

僅小存モ永保年中太和丹後守入道淨味神並村

は古事記で廿四時うち間右左小権の政本法植

を捨朽木滅迹也

ては色の紫銅色

什寶兩思曼茶羅巨勢金國等

十二神將十二脇同年

香山伊駒山の續あり山趾小目下里あり

檢家名所集れ張津

神武紀云遙流而上經至三河内國草香邑白肩之津云

神武天皇東征の際時大和國小入治人中一

壓運の日步波

古道より

萬葉集の長歌草香ふ波よ

忍照、羅波をとく 打廉、草あれふを、タナレ是

吾こそえくれひふもせふらきるつじの、たくわぬ

草

香山

伊駒山の續あり山趾小目下里あり

檢家名所集れ張津

神武紀云遙流而上經至三河内國草香邑白肩之津云

神武天皇東征の際時大和國小入治人中一

壓運の日步波

古道より

萬葉集の長歌草香ふ波よ

忍照、羅波をとく 打廉、草あれふを、タナレ是

吾こそえくれひふもせふらきるつじの、たくわぬ

君が何時往而もやるん、左注云右一首。獨一作者。獨一

續古今集
不顯名字ヲ

かくす處や難波をさすあかいく系名のふなづとよまつかふ 侯人ち實

墨香は今海郡内日下村の管内小天子池御跡池 東照宮記

池云は池むり一廣太約く入江とよめん又古事記

雄畧天皇の殿小引田の老女歌小

茶名にの入江と連れをも三の門からきりきらを
吐猿編云は哥よりと多繁寺四の門より大納戸族人郎師子の仕
立て上り移へたり時沙汰濁壁の鏡室より移へたが比近すい
かのぞ云日下色がつゝと我
草薙里詳見

續後撰

茶名にの入江と連れをも三の門からきりきらを

吐猿編云は哥よりと多繁寺四の門より大納戸族人郎師子の仕
立て上り移へたり時沙汰濁壁の鏡室より移へたが比近すい
かのぞ云日下色がつゝと我

草薙里詳見

藤原

吉川の入江と連れをも三の門からきりきらを

右伴藤人

日下瀧と奥小あり式町詳見

涼一とや三千尺の瀧れいぞ

水走梅園

河五ノ九

瑞雲山大龍禪寺 日村小あり経宗

黃檗派

佛殿釋迦佛 小安

中央

禪悅堂

佛殿の左小あり

金紫良

者灰安

金紫良

選佛場 観音灰安

ノ

開山堂

開山惠極和尚

の像

鐘樓 頭圓音閣

額

表門

額瑞雲山

開山惠極

寺

聯表門の左右小柱

惠極の筆

瑞雲

蒼松

明月祖意

門ち小あり是モ丈符

富景樓

吉田村吉田氏の宅

金子

は地の領主行相度より聖堂小殿て

書目稿小妻

吉田思

玄二百石を寄附

一

年

樓の不

打

景樓信根の功徳小ありとん京作

高雲義頂法王小再生

高雲義頂法王小再生

高雲義頂法王小再生

高雲義頂法王小再生

高雲義頂法王小再生

高雲義頂法王小再生

高雲義頂法王小再生

高雲義頂法王小再生

富景樓

吉田氏の宅

金子

は地の領主行相度より聖堂小殿て

書目稿小妻

吉田思

玄二百石を寄附

一

年

樓の不

打

駒山朝殿

高安秋月

弱江斜陽

櫻井春烟

水田白鷺

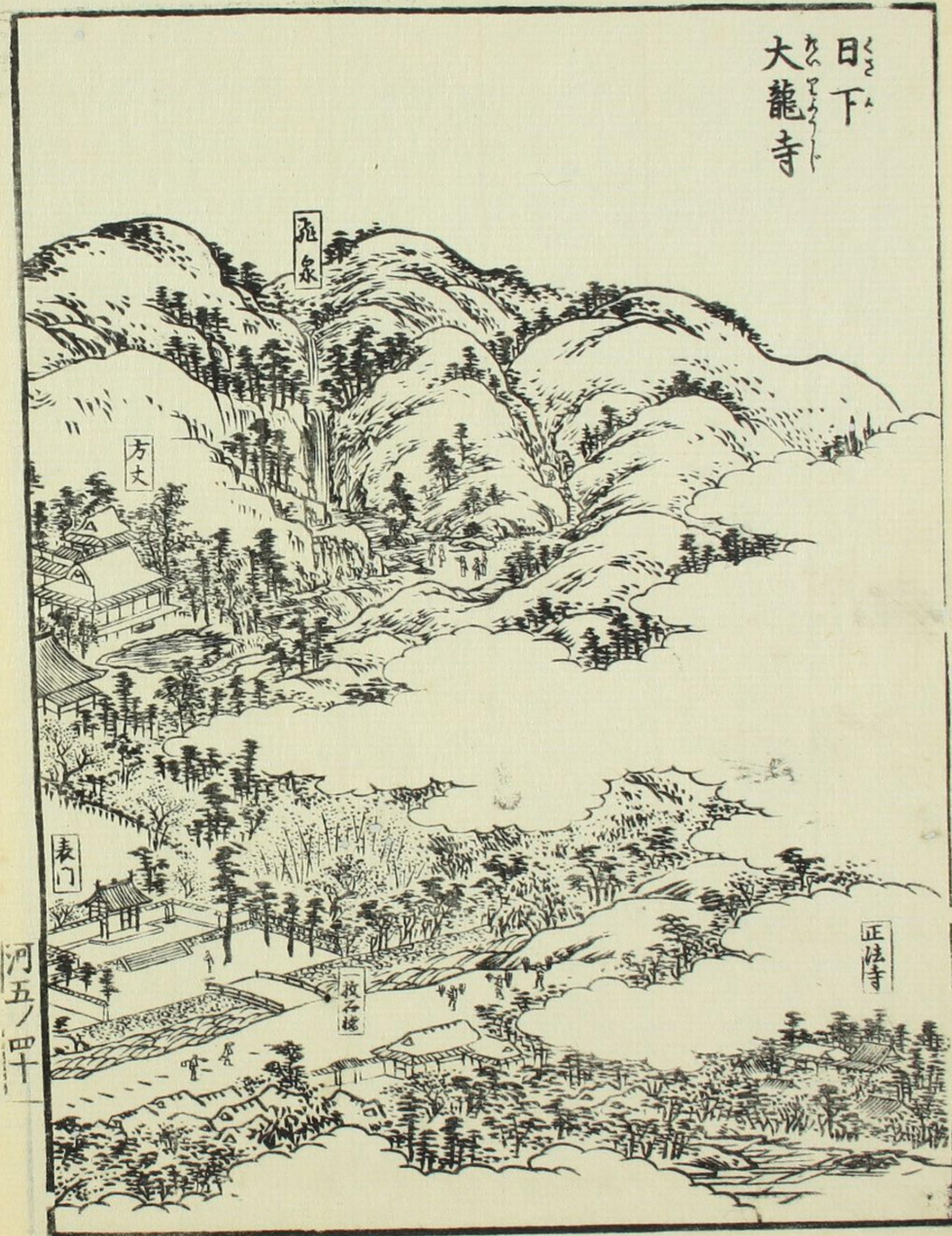
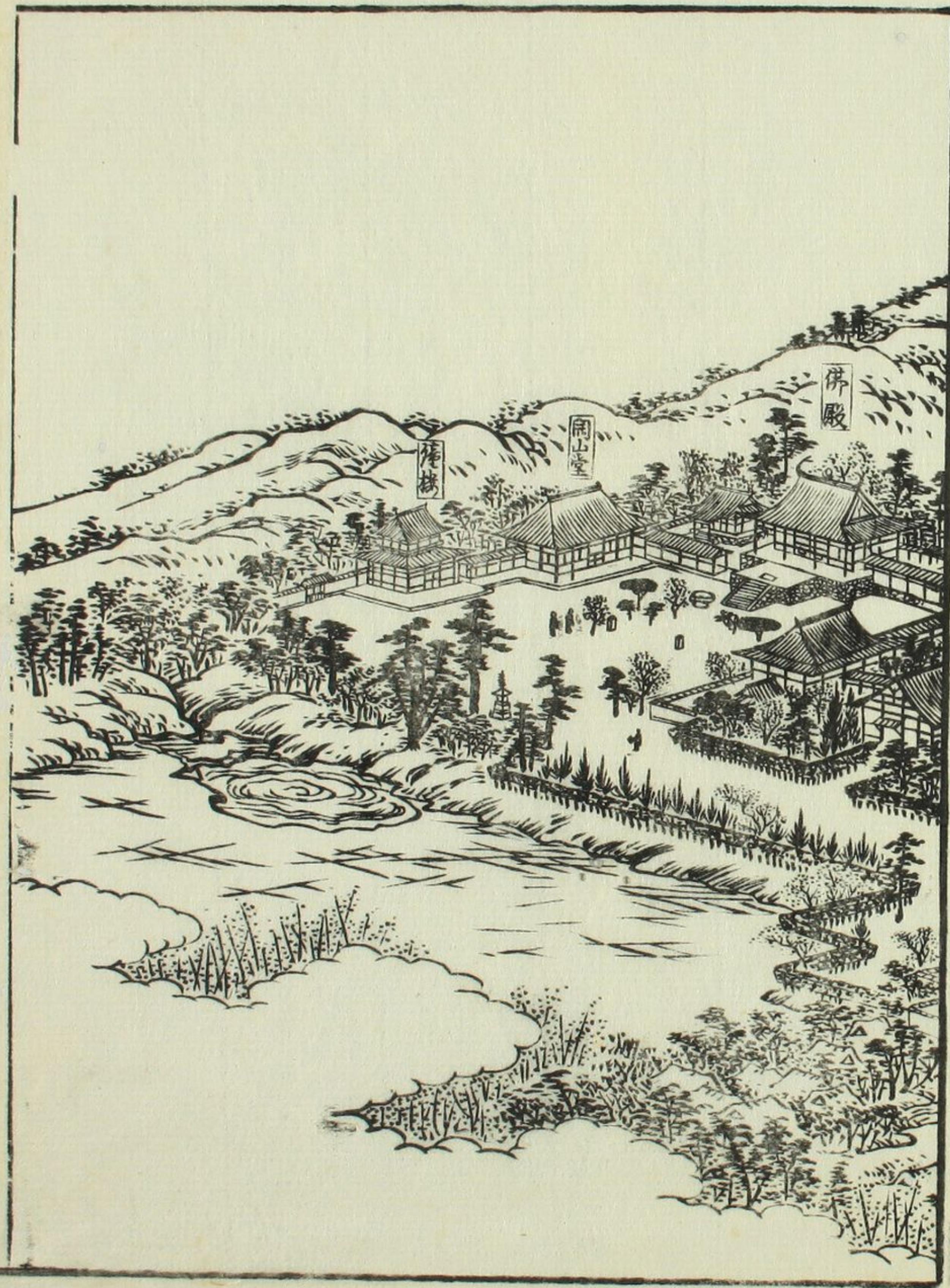
池島夜雨

華岡晚鐘

金嶽残雪

麥龍錦雉

駒山朝殿



河五ノ四十

日下
大龍寺

忠臣日下部使主

日本紀云

履中天皇の皇子市邊押磐の家

皇子非令

く薨

由小後使主

小人

小人

皇子孤誘ふと丹後國と諫那小逃趨其子吾田養と俱小
御子を左して危難を避又接列縞見山の岩窟小潛居
甚衰之濱洋赤石の海食小渦そ其時清寧天皇淺路海人志成
日濱食ふ二人の皇子孤誘ひ大不備且セカヒヌ中
仁祖陽を引かく大不備の後事小郎一め御
賢天皇と其舍弟宮と御宗天皇と我跡
申是みか日下部延引の忠貞か

